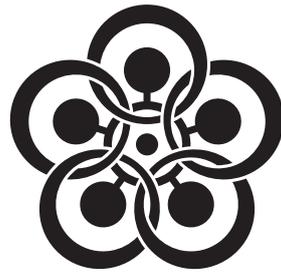


東京医科歯科大学大学院  
保健衛生学研究科年報

2023年度



2025年3月



## はしがき

2022年度より、東京医科歯科大学は、世界最高水準の教育研究活動の著しい向上とイノベーション創出を図ることを目指した「指定国立大学法人」の指定を受けました。さらに、2024年10月には東京医科歯科大学はと東京工業大と統合して「東京科学大学(通称 Science Tokyo)」という一つの新しい大学が誕生します。

これを受けて、本学では、理工学との融合が活性化し、世界最高水準の教育研究活動の向上とイノベーション創出を目指す土壌が広がります。保健衛生学研究科においても、世界最高水準の研究者育成が第一の使命となるとともに、教員一同も世界最高水準の教育研究者として活動展開し、イノベーションの創出が求められます。

このミッションを達成すべく、保健衛生学研究科は看護先進科学専攻として、東京医科歯科大学病院看護部をはじめとした看護実践者と強い連携・協働を図るとともに、本学医学部・歯学部との横のつながり、さらには理工学との連携を強化しながら、看護学の発展と社会への寄与を目指していきます。

本研究科の特徴である5年一貫課程では、5年間の継続的な学修による学位(修士号と博士号)の取得、最初の2年間で修士号取得、他大学での修士号取得者に対しては2020年度から開始した編入学制度(博士後期課程からの進学に相当)による後半3年間の在籍期間を経た博士号取得、といった多様で柔軟な対応が可能な課程となっています。

コロナ禍に加えて超高齢人口減少社会や科学技術が大きく進展する変革の時代の中、1人1人の個別性を大切にし、その人の医療(cure、診療の補助)と生活(care、療養上の世話)を支える学問である看護学に期待される役割はより大きくなると確信しております。

今後も東京医科歯科大学保健衛生学研究科の教員・大学院生を含む各分野の構成員は、世界における看護界のリーダー的存在となることを目指し、本年報に記す活動実績が一層豊かになるよう、日々研鑽して参ります。

2025年3月吉日

東京医科歯科大学大学院

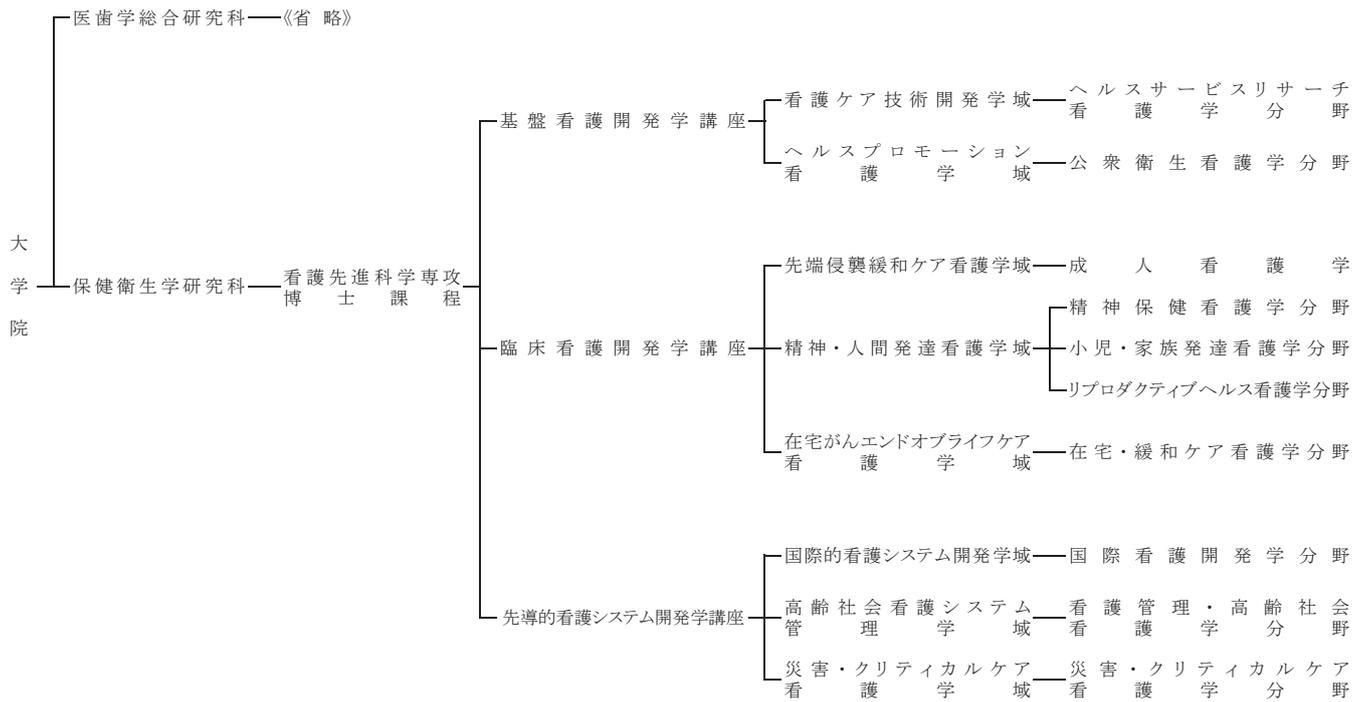
保健衛生学研究科長 福井小紀子

# 目 次

I. 機構図	2
II. 各教育研究分野における教育・研究	
<b>看護先進科学専攻</b>	
<b>基盤看護開発学講座</b>	
看護ケア技術開発学域	
ヘルスサービスリサーチ看護学分野	4
ヘルスプロモーション看護学域	
公衆衛生看護学分野	7
<b>臨床看護開発学講座</b>	
先端侵襲緩和ケア看護学域	
成人看護学分野	14
精神・人間発達看護学域	
精神保健看護学分野	17
小児・家族発達看護学分野	22
在宅がんエンドオブライフケア看護学域	
在宅・緩和ケア看護学分野	26
<b>先導的看護システム開発学講座</b>	
国際的看護システム開発学域	
国際看護開発学分野	36
高齢社会看護システム管理発学域	
看護管理・高齢社会看護学分野	41
災害・クリティカルケア看護学域	
災害・クリティカルケア看護学分野	45
III. 2023年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表	51
IV. 2023年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文題目一覧表	54
V. 委員会委員名簿	56
VI. 就職状況一覧表（2024年3月卒業・修了者）	58

## I. 機 構 図

東京医科歯科大学大学院機構図 (2023年4月1日)



## Ⅱ.各教育研究分野における教育・研究

## ヘルスサービスリサーチ看護学分野

### Department of Nursing Health Services Research

教 授 柏木聖代  
准教授 森岡典子  
助 教 大河原啓文

大学院生  
5年一貫制後期課程  
樺島稔  
柴野裕子  
古川彩子  
勝又彩瑛  
鈴木のどか  
山口恵美  
大柿真彦  
町田垂子

#### (1) 分野概要

ヘルスサービスリサーチ (Health Services Research) は、社会的要因、報酬体系、組織の構造 (structure) やプロセス (process)、アウトカム (outcome)、医療の質、サービス利用、コスト、アクセシビリティ等を科学的に探究する学際的な研究分野です。

#### (2) 研究活動

##### 1) ナーシング・ヘルスサービスリサーチ

国や自治体レベルのデータ分析等を通じ、病院・施設・在宅等における主に看護サービスの質 (インプット・プロセス・アウトカム) に関するヘルスサービスリサーチに取り組んでいる。

##### 2) リアルワールドデータを活用した看護サービスの質・政策評価研究

レセプトや電子カルテなどのリアルワールドデータを用いた学際的アプローチにより、看護サービスの質・政策評価にかかる研究に取り組んでいる。

##### 3) 保健医療人材の需給推計および地理的分布に関する研究

看護職等の保健医療人材の需給推計、地域偏在や人材供給量の検証に取り組んでいる。

##### 4) 看護実践の可視化・知識ベースの開発

優れた看護実践の可視化を目指し、看護実践に関する看護師の集合知を形成し、科学的に解明するための方法論の検討を行っている。

#### (3) 教育活動

学部教育では、1年生と2年生を対象に基礎看護学を担当している。看護学の基盤となる理論、専門職業人としての態度、看護学に共通した援助技術修得に必要な知識・技能を教授している。また、4年生には、当分野での卒業

研究を選択した学生を対象に、講義、ゼミ形式、個別指導など多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。

#### (4) 教育方針

##### 1) 学部教育

学部教育では基礎看護学を担当し、アクティブ・ラーニングの技法を積極的に取り入れ、看護専門科目の知識、態度、技能形成の基盤づくりを行っている。

1年次には専門科目の「人間の健康と看護」、「基盤看護学実習Ⅰ」、「看護制度論」を開講した。「人間の健康と看護」は看護の共通基盤である看護の概念・目的など看護観形成の基礎となる知識を習得し、看護が対象とする人々への理解を深めることを目指した。基盤看護学実習Ⅰは本学病院において行い、専門科目の学習初期段階において、医療の現場を知り健康障害をもった人々と直接関わることで、看護の機能と役割への理解することを目指している。看護制度論では、国内外の政策立案に携わる看護職の活動の紹介もふまえ、看護職の法的位置づけと看護実践の特徴を知り、看護の機能と役割を理解するための基礎的知識を養うことを目的とする。

2年次は、基礎看護学Ⅱ、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱを開講している。講義と演習を通じ看護を実践し、探求する能力を習得し、発展させるための知識・技術の習得を目標とした。ここでは看護技術の原理および根拠を理解することに重点を置き、看護職者としての知識・技能・態度の形成と主体的学習態度の形成を目指している。また、基礎看護学実習Ⅱでは、看護過程の展開を理解するとともに、日常生活援助を通して「健康とは」「看護とは」を考え、医療人としての態度や責務、倫理観を学ぶことに重点を置いている。

4年生の卒業研究では、学生の興味のある研究テーマを支持しながら、研究方法と論文の書き方および発表の仕方について指導した。学内での発表にとどまらず、学会発表、学術誌への論文投稿できるよう指導を行なっている。

##### 2) 大学院教育

大学院教育では看護ケア技術開発学特論Ⅰ・Ⅱ、および看護ケア技術開発学演習Ⅰ、看護政策学特論、特別研究Ⅰ・Ⅱを担当している。

ヘルスサービスリサーチに関する手法を学び、国内外の政策立案に資する研究成果を看護の立場から発信できるよう、指導を行っている。自身の研究テーマに加え、分野で取り組んでいる大規模研究プロジェクトへの参画等を通じ、専門的な知識や技術のみならず、研究者としての実践経験を積み重ね、国内外で活躍できる人材の育成を目指している。

#### (5) 臨床活動および学外活動

##### 研究支援

医学部附属病院看護部と連携し、研究支援や共同研究を行っている。また国内外の他大学との共同研究や地域の組織や機関等との共同研究や研究支援を行っている。

#### (6) 研究業績

##### [原著]

1. Morioka N, Ochi M, Okubo S, Moriwaki M, Hayashida K, Sakata I, Kashiwagi M. Citation Network Analysis of Nurse Staffing Research from the Past Two Decades: 2000-2022. *Healthcare* (Basel, Switzerland). 2023.11; 11(23);
2. Tsuji M, Fukahori H, Sugiyama D, Doorenbos A, Nasu K, Mashida Y, Ogawara H. Factors related to liability for damages for adverse events occurring in long-term care facilities. *PloS one*. 2023.05; 18(5); e0283332
3. Morioka N, Kashiwagi M, Machida A, Hanari K, Sugiyama T, Inokuchi R, Tamiya N. Japanese Local Governments' Dissemination Activities for Advance Care Planning: A Descriptive Analysis of a Nationwide Survey during the COVID-19 Pandemic. *International journal of environmental research and public health*. 2023.04; 20(7);
1. 柏木聖代. 保健師活動とヘルスサービスリサーチ 公衆衛生. 2023.09; 87(9); 926-929

## [総説]

1. 森岡 典子. 【日々の医療情報を研究に活かす—データの2次利用に向けて—】訪問看護ステーションにおけるデータの2次利用でどのような研究ができるか 看護研究. 2023.08; 56(4); 311-323
2. 森岡 典子. 【訪問看護の有害事象-事故、ヒヤリ・ハット、感染症はどのぐらい発生しているのか】訪問中、利用者に発生する有害事象 訪問看護と介護. 2023.05; 28(3); 232-239

## [講演・口頭発表等]

1. Shinya Mitani, Hirofumi Ogawara, Tetsuya Sakakibara, Hiroki Fukahori. Using realist evaluation to assess interventions that can improve care for older adults: a scoping review. 第43回日本看護科学学会学術集会 2023.12.09
2. Hirofumi Ogawara, Hiroki Fukahori, Yuriko Mashida, Sachiko Matsumoto, Katsumi Nasu. Nursing Practice for Detecting Changes in Residents' Conditions in Long-term Care Facilities. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 2023.06.12 Yokohama, Japan
3. Noriko Morioka, Masayo Kashiwagi, Nanako Tamiya. Impact of the Covid-19 pandemic on dissemination activities for advance care planning in Japanese municipalities: a secondary analysis of a nationwide survey. IAGG-Asia Oceania Regional Congress 2023 2023.06.12 Yokohama, Japan
1. 森岡 典子, 柏木 聖代, 柏木 公一. 看護小規模多機能居宅介護の初回利用時の利用者の特徴—介護保険総合データベースを用いた分析—. 第82回日本公衆衛生学会学術集会 2023.11.02 茨城
2. 柏木 聖代, 森岡 典子, 柏木 公一. 要介護高齢者の死亡前1年間のケアトランジション—介護保険総合データベースを用いた分析. 第82回日本公衆衛生学会学術集会 2023.11.02 茨城
3. 柴野裕子, 森岡典子, 柏木聖代. 医療的ケア児やその家族に対する協働の実践について：スコーピングレビュー. 第82回日本公衆衛生学会 2023.10.31 茨城県
4. 遠藤 七海, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 奈穂子, 柏木 聖代, 森岡 典子, 高澤 維月, 吉田 奈永, 吉田 直美. 口腔保健学科学者が実施した看護学生への口腔ケアに関する健康教育の効果. 日本歯科衛生学会学術集会 2023.09.16 静岡/ハイブリッド
5. 森岡 典子, 吉岡 純希, 柏木 聖代. 看護学生を対象にしたデジタルアートを活用したケアイノベーション授業の試行的取組み. 第27回日本看護管理学会学術集会 2023.08.25 東京

## [受賞]

1. 大学院第一種奨学金 特に優れた業績による返還免除（半額免除），日本学生支援機構，2023年06月

## [その他業績]

1. 南江堂. NurSHARE. 『宮下光令の看護研究講座「私はこう教えている」』特別座談会.(森岡典子)  
<https://www.nurshare.jp/article/detail/10460>, 2023年09月

## [社会貢献活動]

1. 東京都訪問看護ステーション協会顧問（柏木 聖代），2015年07月01日 - 現在
2. 日本在宅看護学会 理事（柏木 聖代），2015年09月 - 現在
3. 日本医療・病院管理学会 事業委員会（柏木 聖代），2016年05月 - 現在
4. 東京都訪問看護ステーション協会 顧問（柏木 聖代），2017年08月 - 現在
5. 日本在宅看護学会 編集委員会委員長（柏木 聖代），2018年06月 - 現在
6. 日本看護科学会誌和文査読委員（森岡 典子），2021年10月01日 - 現在
7. 日本公衆衛生学会 選挙管理委員（森岡 典子），2023年12月01日 - 現在

## 公衆衛生看護学分野

### Public Health Nursing

教授	月野木 ルミ	～20230430 地域保健看護学分野	
准教授	森田 久美子	～20230430 地域健康増進看護学分野	
助教	津田 紫緒	～20230430 地域保健看護学分野	
大学院生	田沼 寮子	～20230430 地域保健看護学分野	
	巽 夕起	～20230430 地域保健看護学分野	
	塩満 智子	～20230430 地域保健看護学分野	
	木村 光佑	～20230430 地域保健看護学分野	
	小野寺 春香	～20230430 地域保健看護学分野	
	川原 瑞希	～20230430 地域保健看護学分野	
	三村 祐美子	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	丸山 佳代	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	保木 みか	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	大竹 文	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	角田 紘子	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	庄司 花円	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	石井 佳代子	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	大平 綾美	～20230430 地域健康増進看護学分野	
	研究生	山本 晴美	～20230430 地域健康増進看護学分野
	技術補佐員	河邊 優	

#### (1) 分野概要

本分野では、公衆衛生分野を専門として、地域の健康課題解決や地域保健活動への貢献を目指し、教育・研究を行っている。

学部教育では、地域包括ケアシステムで活躍する看護職の育成を行い、保健師課程の教育では、探求心とリーダーシップを備えた、自治体や国の施策化に貢献できる保健師の育成を目指している。また、大学院教育では、国際的に活躍できる看護研究者や、自治体や国の施策にコミットできるリーダー的役割を果たす実践家の育成に努めている。

研究は、公衆衛生分野全般を範囲とし、特に循環器疾患とその危険因子について、関連の解明と予防方法の開発に力を入れ、多くのエビデンス創出に貢献している。

#### (2) 研究活動

公衆衛生を専門とし、地域の健康課題解決や地域保健活動へ貢献できるエビデンスの創出を目指した研究を行っている。主に循環器疾患とその危険因子との関連の解明と予防方法の開発をテーマに、疫学研究、介入研究、保健統計という疫学手法を用いて研究を行っている。

主な研究テーマ

1. 循環器疾患と危険因子との関連の解明（疫学研究、保健統計）
2. 保健指導、健康教育の開発と実証研究
3. 循環器疾患、メンタルヘルス、産業保健、母子保健、がんの予防活動、社会実装研究
4. 公衆衛生活動の開発と評価

5. 地域健康づくりに関する研究  
6. 労働者の親介護に関する研究

2023年度の具体的な研究活動内容は、

- ・次期健康日本21策定評価に向けて、全国コホート研究NIPPON DATA90を用いて循環器疾患危険因子の重積と健康寿命に関する疫学研究を行い、論文投稿を行った。
- ・子育て中の被扶養者に対する生活習慣病予防健診の受診啓発に関する社会実装研究として、品川区の「20歳からの健康診査」の啓発活動を継続している。主には、ナッジを用いた健診啓発パンフレットを作成し区内の医療福祉機関、児童館、子育て支援活動団体、幼稚園などに配布し、行政や子育て支援団体と協働して子育て女性に対する受診啓発を展開している。前年度は年少人口割合が高い地域に焦点を当て、健診未受診の母親に対して調査を行い、戦略を分析したが、今年度は健診受診体験を持つ母親らにインタビュー調査を行い、受診継続に結び付く戦略を分析した。また、SNSを用いた啓発活動の展開を開始した。その結果子育てイベント参加者を対象にした調査では、健診の認知度について、前年度に比べ若干の上昇が認められている。さらに子育て支援団体と協働で母親らに直接、母子の健康に関する情報提供や健診啓発する機会を創出し、より一層啓発を強化した。また、被扶養者である母親らへの調査、子育て支援団体を介した健診受診啓発、地域での啓発と認知度に関する調査について、日本公衆衛生学会学術総会にて発表した。
- ・厚生労働省予防健康づくりに関する大規模実証事業に参画し、循環器疾患予防の食行動変容をめざした尿ナトリウム比測定と保健指導、食環境整備に関する介入手法を開発し、2021年度より全国自治体と職域で実証研究を実施し、現在国際誌に投稿中である。
- ・上記後継事業である厚生労働省の予防・健康づくりに関するエビデンス構築事業（食行動・女性の健康・環境整備）である「食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業」において、共同研究者として保健指導マニュアル・事例・動画・啓発媒体作成の監修や編集を実施した。
- ・厚労科研「包括的・多要素の職業的ライフスタイル介入がテレワーカーにおける身体活動、筋骨格系健康、職場環境に及ぼす影響：クラスターランダム化比較試験」に参加しており、本学倫理審査委員会の審査を完了した。
- ・大学院生の研究活動では、地域コホート研究「神戸トライアル」について現在倫理審査委員会にて審査中である。健康な一般都市住民における6年間のNa/K比推移と特徴について日本疫学会学術集会で また、2019年～2021年の児童虐待件数の動向とCOVID-19による影響について研究を行い、その成果を日本公衆衛生学会で発表した。発達障がい児への虐待の判断に関連する要因検討の研究成果を、日本疫学会で発表した。保健師の感情労働に関する研究結果について、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会での発表を行った。また、「テレワーク労働者の運動機能向上を目指した生活習慣改善プログラムの開発」の研究題目で、東京医科歯科大学、東京工業大学及び野村不動産ライフ&スポーツ株式会社と産学連携研究を開始した。オンライン型健康教育プログラム作成のため、テレワーク労働者にインタビュー調査と分析を行った成果を日本疫学会学術総会、日本衛生学会学術総会において発表した。
- ・東京都のがん検診データに基づき、「東京都における子宮頸がん検診受診率の地域格差と要因分析」についての研究成果を国際学会IACCSにおいて発表し、国際誌への投稿準備中である。

学部学生は「健診習慣のない子育て世代の被扶養者女性が捉えた「20歳からの健康診査」の受診促進方法」（2023年度 市川さくら）、「月経随伴症状が看護業務にもたらす影響」（2023年度 植村天音）、「子宮頸がんワクチンの接種に対する母親への教育的介入の効果と教育方法の検討」（2023年度 遠藤菜々）、「新型コロナウイルス感染症の5類移行後の大学生における気晴らしの実態」（2023年度 門珠衣）、「乳幼児親子による地域の居場所の継続的利用に向けた子育て支援拠点のスタッフによる工夫」（2023年度 北原多映子）、「テレワーク労働者の身体活動における促進要因の解明：フォーカスグループインタビュー」（2023年度 高野愛紗）、「発達障害の特性をもつ母親への児の発達段階に応じた支援」（2023年度 常川美羽）、「東京都における子宮頸がん検診受診率の地域格差と要因分析」（2023年度 原田伊織）、「大学生の一人暮らしがもたらす生活習慣の変化とストレス面への影響」（2023年度 堀純華）をテーマに研究を行った。

大学院生は「訪問看護師への認知症高齢者ケアに関するICTを用いた教育効果の検討」（2022—2023年度 田沼寮子）、「発達障害児に対する言葉による行動抑制に関する研究」「福祉行政報告例による2015年～2020年の児童虐待相談件数の動向と地域差」（2022-2023年度 巽夕起）、「労働者を対象とした運動習慣とロコモティブシンドローム予防のための運動プログラムの検証」（2022-2023年度 塩満智子）、「慢性疾患を有する成人 高齢者とその家族に対する訪問看護師によるACPの認識と実践内容 方法」（2022-2023年度 木村光佑）、「女性訪問看護師のメンタルヘルスのセルフケア支援」（2022-2023年度 三村祐美子）、「小学生の子を持つ父親の健康意識と生活習慣の改善に関する介入研究—LINEを活用した教育プログラムの開発と効果の検証—」（2022-2023年度 丸山佳代）、「1か月未満の児をもつ両親を対象とした育児に関する自己効力感を高めるための看護支援—妊娠期からの継続的な支援—」（2022-2023年度 保木みか）、「精神障害者のリハビリ支援」（2022-2023年度 大竹文）、「女子高校生に対するがんリテラシー教育の実施と効果の検証」（2022-2023年度 角田紘子）、「動画教育による若年層のリテラシー能力の向上～ボディイメージに着目して～」（2022-2023年度 庄司花円）、「労働者の健康行動の動機づけプロセスに関するミックスメソッドリサーチ」（2022-2023年度 石井佳代子）、「地域在住高齢者の心理

社会的健康を促進するための ICT を活用した介入プログラムの実施と評価」(2022-2023 年度 大平綾美)、「訪問看護利用者へのヒーリングタッチの効果」(2022-2023 年度 山本晴美 ※研究生) というテーマについて研究を行っている。

### (3) 教育活動

#### 1) 学部教育

主に地域保健看護学Ⅰ、地域保健看護学Ⅱ、地域保健看護学Ⅲ、地域保健看護学演習、地域保健看護学実習、卒業論文を担当している。

関連科目と連携をとりながら授業を展開し、学生のより深い習熟をめざして、学内における講義および演習と実習を相互に連動させ、地域保健看護活動の理論・実践・研究の統合を目指して教育をしている。

2023 年度の学部学生の実習は、保健師コース（選択制）の学生を対象とした。

地域保健として、東京都特別区では足立区（江北保健センター、竹の塚保健センター）、墨田区（本所保健センター）、台東区（台東保健所保健サービス課、浅草保健相談センター）、葛飾区（金町保健センター）、北区（北区保健所・王子健康支援センター、赤羽健康支援センター）の 5 区（8 か所）で行った。東京都特別区以外の地域保健では、千葉県柏市で実習を行った。

学校保健として、お茶の水女子大学附属小学校、筑波大学附属小学校、産業保健として、株式会社 JAL グランドサービス、キヤノン電子株式会社、日本航空株式会社で実習（一部遠隔実習）を実施した。

#### 2) 大学院教育

主に公衆衛生学特論Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学特論Ⅱ、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱを担当している。

公衆衛生施策立案に必要な海外の理論である community as partner の洋書を精読し議論する講義や、日本の公衆衛生施策の動向や公衆衛生活動における実際の学びから、公衆衛生活動の企画・実施・評価に必要な知識と技術を修得できるように教育している。また、公衆衛生分野の研究を遂行するために、大学院生の関心のある専門領域の実践家や研究者を招いて指導を受ける機会を設けて必要な教育を行っている。

#### 3) その他

保健師教育の卒後の教育研究のフォロー体制の構築として、公衆衛生看護学分野の卒論生、大学院生、本学保健師課程コース出身者を対象とし昨年度作成したメーリングリスト「東京医科歯科大学公衆衛生看護学 OGOB ネットワーク」では、自治体や産業の保健師募集や説明会、講演会に関する情報の投稿を行った。

### (4) 教育方針

#### 1) 学部教育

学部教育では、地域包括ケアシステムで活躍する看護職の育成を目指して、低学年から地域理解の観点をもち、地域のあらゆる対象に適切に関わる力を育む。

保健師課程の教育では、特別区や市町村の保健所、保健センター、学校保健、産業保健など多様な場での実習を通して、保健師活動の実際や保健師の役割を学ぶことができる。将来、探求心とリーダーシップを備え、自治体や国の施策化に貢献できる保健師の育成を目指している。

#### 2) 大学院教育

公衆衛生上の多様な健康課題をタイムリーに解決し発展に寄与できる研究者育成を目指し、研究の基礎となる知識・技術を習得できる研究教育体制を整えている。

また、大学院時代から第一線の実践家・研究者の研究や活動に触れる機会も積極的に設け、国際的に活躍できる看護研究者や、自治体や国の施策にコミットできるリーダー的役割を果たす実践家の育成に努めている。具体的には、学内外との共同研究、英語論文や書籍精読、英語論文執筆方法の学習機会、研究手法の演習などがある。

## (5) 研究業績

### [原著]

1. Fumi Ohtake, Maiko Noguchi-Watanabe, Kumiko Morita. the process of home-visiting nurse supporting people with mental disorders International Journal of Environmental Research and Public Health. 2023.10; 20;
2. Tsukinoki R. Importance of a Community-Based Approach to Accelerate Referral to Physicians for Individuals with a High Risk of Cardiovascular Disease. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2023.05; 30; 1315-1316
3. Shima Azusa, Tanaka Hideo, Okamura Tomonori, Nishikawa Tomofumi, Morino Ayumi, Godai Kayo, Tatsumi Yukako, Kawahara Mizuki, Kiyohara Maiko, Kawatsu Yuichiro, Kimura Takashi, Miyamatsu Naomi. 職場でのマンモグラフィ提供による受診率の改善 クラスター無作為化対照試験 (Offering on-site mammography in workplaces improved screening rates: Cluster randomized controlled trial) Journal of Occupational Health. 2023.02; 65(1); 1 of 9-9 of 9
1. 若子 みな美, 佐田 みずき, 久保田 芳美, 西田 陽子, 久保 佐智美, 東山 綾, 平田 匠, 門田 文, 平田 あや, 宮寄 潤二, 川原 瑞希, 桑原 和代, 杉山 大典, 宮松 直美, 宮本 恵宏, 岡村 智教. 都市部住民における塩味味覚閾値の規定要因に関する検討 神戸研究 日本公衆衛生雑誌. 2023.05; 70(5); 300-310
2. 月野木ルミ. 被扶養者女性における健診・がん検診受診の促進・阻害要因の解明 医療の広場. 2023;

### [講演・口頭発表等]

1. Iori Harada, Yuri Ito, Kumiko Morita, Mizuki Kawahara, Shio Tsuda, Rumi Tsukinoki. Associations Between Regional Screening System Factors and Cervical Cancer Screening Coverage in Tokyo. International Asian Cancer and Chronic Disease Screening 2023.12.15
2. Tsukinoki R, Murakami Y, Imamura H, Okamura T. Reliable information from health professionals encourages urban Japanese mothers' continued participation in health checkups. 第26回東アジア看護学研究者フォーラム (EAFONS2023) 2023.03.10 Hybrid conference in The University of Tokyo and using online
3. Ayami ODAIRA, Kumiko MORITA. Review of factors affecting the mental health of older adults living alone. EAFONS 2023 2023.03.10 Tokyo
4. Kayoko Ishii, Kumiko Morita. Relationship between Basic Psychological Needs Theory and Organic Integration Theory in Japanese workers. EAFONS 2023 2023.03.10 Tokyo
5. Kayo MARUYAMA, Mie HOKUTO, Harumi YAMAMOTO, Kumiko MORITA. Literature review on intergenerational exchange programs using ICT. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.03.10 Tokyo
6. Mizuki Kawahara, Naomi Miyamatsu, Yosuke Kadota, Itsuko Miyazawa, Katsutaro Morino, Azusa Shima, Takashi Ashihara, Yukihiko Fujita, Hiroshi Maegawa. The Impact of Guideline Revisions on Glycemic Control in Elderly Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: an observational study. EAFONS 2023 2023.03.10
1. 石井佳代子, 角田 紘子, 永嶺仁美, 森田久美子. 運動の動機づけ段階に応じた労働者のニーズ. 第43回日本看護科学学会学術集会 2023.12.08
2. 森田久美子, 丸山佳代, 大平綾美, 山本晴美, 大竹文. 高齢者と大学生の幸福感や自己効力感の向上を目指す世代間交流プログラムの検討. 日本世代間交流学会第14回全国大会 2023.12.02 京都
3. 角田 紘子, 丸山佳代, 森田久美子. 女子高校生に対するがんリテラシー教育の実施と効果の検証. 一般社団法人日本学校保健学会 第69回学術大会 2023.11.11 東京
4. 丸山佳代, 森田久美子. LINEを用いた父親の食事と身体活動プログラムの開発—動画コンテンツの効果検証—. 第82回日本公衆衛生学会総会 2023.11.02 筑波
5. 坪井二千夏, 月野木ルミ, 津田紫緒, 若林佳奈. 子育て中 被扶養者女性に対する健診啓発 (第1報): 未受診者のインタビュー調査. 第82回日本公衆衛生学会総会 2023.10.31 茨城県

6. 若林佳奈, 月野木ルミ, 津田紫緒, 坪井二千夏. 子育て中被扶養者女性に対する健診啓発 (第2報): 子育て支援団体を介した啓発の調査. 第82回日本公衆衛生学会総会 2023.10.31 茨城県
7. 月野木ルミ, 大澤絵里, 今村晴彦, 眞崎直子, 村上義孝, 岡村智教. 子育て中被扶養者女性に対する健診啓発 (第3報): 地域での啓発と認知度調査の報告. 第82回日本公衆衛生学会総会 2023.10.31 茨城県
8. 本田 順子, 月野木 ルミ, 津田 紫緒, 佐々木 明子, 松山 眞知子. 行政保健師の感情労働における感情規則に関する検討. 第82回日本公衆衛生学会総会 2023.10.31 茨城県
9. 巽夕起, 片岡葵, 月野木ルミ, 伊藤ゆり. 2019年~2021年の都道府県別 児童虐待件数の動向と COVID-19 による影響. 第82回日本公衆衛生学会総会 2023.10.31 茨城県
10. 本田 順子, 月野木 ルミ, 津田 紫緒, 佐々木 明子, 松山 眞知子. 対人支援における行政保健師の感情の管理方法—感情制御の視点から. 日本地域看護学会第26回学術集会 2023.09.02 神奈川県川崎市
11. 巽夕起, 片岡葵, 月野木ルミ, 伊藤ゆり. 福祉行政報告例による 2015年~2020年の児童虐待相談件数の動向と地域差. 第33回日本疫学会学術総会 2023.02.02 静岡県

### [受賞]

1. 卓越博士賞 学会発表賞, 東京医科歯科大学 TMDU 卓越大学院生制度事業統括, 川原瑞希, 2023年09月
2. 第43回日本看護科学学会優秀演題ポスター発表賞, 石井佳代子, 2023年12月

### [その他業績]

1. 第16回品川子育てメッセ2023 協賛出展, 月野木ルミ, 2023年10月  
品川区の健診受診啓発活動推進
2. 第82回日本公衆衛生学会シンポジウム座長, 月野木ルミ, 2023年11月  
「自治体における健康づくり事業の円滑なPDCAサイクルの循環を目指して」  
モニタリング・レポート委員会生活習慣病・公衆栄養グループでは、令和3年度に「新型コロナウイルス感染症感染拡大後の都道府県民健康・栄養調査実施状況調査報告書」を作成した。本報告書に対して専門家からは、自治体における健康（栄養）調査の調査方法の課題について理解や、調査結果の適切な評価ができていのかどうかという点について意見が寄せられた。  
いくつかの自治体では健康づくり計画に関連した調査を再開しているが、コロナ禍を経て従来以上に調査法における課題が生じ、それが評価に大きく関わってくると考える。そこで本シンポジウムでは、国立保健医療科学院横山徹爾先生に自治体の健康づくり計画や調査・評価において留意すべき基本的事項を振り返っていただき、焦点を絞ったうえで、今後の健康づくり計画やその評価に求められる行政の課題を、食分野を例に国立健康・栄養研究所瀧本秀美先生に示してもらった。最後に行政保健師経験者の視点も踏まえて愛媛県立医療技術大学の入野了士先生より愛媛県で行っている官学連携による健康づくりの推進事業における良かった点と悪かった点を事例として取り上げ、聴衆とともに自治体に求められる健康づくりのための調査や評価への課題解決について議論した。
3. 第82回日本公衆衛生学会ポスターセッション座長, 月野木ルミ, 2023年11月  
示説 第2分科会1「ヘルスプロモーション」座長

### [社会貢献活動]

1. 日本在宅ケア学会 査読委員, 森田久美子, 2010年 - 現在
2. お茶の水看護学研究会 編集委員, 森田久美子, 2010年04月 - 現在
3. 日本公衆衛生学会 認定専門家, 森田久美子, 2010年04月 - 現在
4. 日本在宅ケア学会 実践・研究助成委員会委員, 森田久美子, 2012年11月 - 現在
5. 日本公衆衛生学会 モニタリングレポート委員, 月野木ルミ, 日本公衆衛生学会, 2014年04月01日 - 2026年04月01日
6. 日本看護科学学会 査読委員, 森田久美子, 2015年 - 現在
7. 日本世代間交流学会 編集委員, 森田久美子, 2015年01月 - 現在
8. 日本地域看護学会 国際交流推進委員会, 森田久美子, 2015年10月 - 現在

9. 日本地域看護学会 査読委員, 森田久美子, 2016年 - 現在
10. 品川子育てメッセ 2018-2022 協賛, 月野木ルミ, 2018年10月30日 - 現在
11. 日本看護科学学会 英文誌編集委員, 月野木ルミ, 2019年07月11日 - 2025年06月30日
12. Journal of Occupational Health 査読委員, 月野木ルミ, Journal of Occupational Health, 2020年 - 現在
13. Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 査読委員, 月野木ルミ, Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 2020年 - 現在
14. International Journal of Environmental Research and Public Health reviewer, 月野木ルミ, International Journal of Environmental Research and Public Health, 2020年 - 現在
15. Journal of occupational Health reviewer, 月野木ルミ, 2020年 - 現在
16. 文京保健所業務継続のための応援派遣, 津田紫緒, 2020年04月08日 - 2023年03月31日
17. お茶の水看護雑誌 編集委員, 月野木ルミ, 2021年 - 現在
18. 日本公衆衛生学会 編集委員, 月野木ルミ, 日本公衆衛生学会, 2021年01月01日 - 2023年12月31日
19. 日本公衆衛生学会 代議員, 月野木ルミ, 2021年07月01日 - 2025年06月30日
20. 江戸川保健所業務継続のための支援, 津田紫緒, 2021年08月16日 - 2023年03月31日
21. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021年08月18日 - 現在
22. 日本看護科学学会 和文誌査読委員, 月野木ルミ, 2021年09月07日 - 2026年09月06日
23. 日本公衆衛生学会 学会連携推進委員, 月野木ルミ, 2021年11月11日 - 2023年10月30日
24. 日本疫学会 疫学研究推進ワーキンググループ委員, 月野木ルミ, 2022年01月 - 2026年01月31日
25. 健康づくり施策のための Textbook～基礎から実践まで～ 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット, 2022年08月 - 2023年01月
26. アルコール 習慣を変える、未来に備える あなたが決める、お酒のたしなみ方 (お酒をたしなむ女性編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット, 2022年08月 - 2023年01月
27. アルコール 習慣を変える、未来に備える あなたが決める、お酒のたしなみ方解説書 (お酒をたしなむ女性編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット, 2022年08月 - 2023年01月
28. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート (30代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット, 2022年08月09日 - 2023年01月
29. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート解説書 (30代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット, 2022年08月10日 - 2023年01月
30. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート (40代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット, 2022年08月11日 - 2023年01月
31. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート解説書 (40代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット, 2022年08月12日 - 2023年01月
32. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート (50代向け編) 監修 (厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発), 月野木ルミ, 厚生労働省健康局, 健康づくりネット, 2022年08月13日 - 2023年01月

33. BMI 理想の体づくりのための健康生活ノート解説書（50 代向け編）監修（厚労省 保健衛生業務やその人材育成の支援を目的としたツール開発），月野木ルミ，厚生労働省健康局，健康づくりネット ，2022 年 08 月 14 日 - 2023 年 01 月
34. EAFONS 査読委員，月野木ルミ，EAFONS, 2023 年 - 2024 年
35. 日本産業衛生学会 編集委員，月野木ルミ，日本産業衛生学会, 2023 年 03 月 - 2026 年 02 月
36. 日本世代間交流学会 理事，森田久美子, 2023 年 04 月 - 現在
37. 第 34 回日本疫学会運営委員会委員，月野木ルミ，一般社団法人日本疫学会, 第 34 回日本疫学会, 2023 年 04 月 30 日 - 2024 年 02 月 29 日
38. 日本疫学会 評議員，月野木ルミ，一般社団法人日本疫学会, 2023 年 06 月 29 日 - 2025 年 06 月 30 日
39. 日本公衆衛生学会 評議員，月野木ルミ，日本公衆衛生学会, 2023 年 07 月 01 日 - 2025 年 06 月 30 日
40. 厚生労働省委託事業 地域健康づくり支援に関する指導・助言，月野木ルミ，ターギス株式会社, 2023 年 07 月 05 日
41. 第 34 回日本疫学会査読委員，月野木ルミ, 2023 年 09 月 01 日 - 2023 年 10 月 31 日

## 成人看護学分野

### Adult Health Nursing

教授	田中 真琴
准教授	川上 明希
助教	川本 祐子
大学院生	畑中 佳子
	藤田 和寿
	岩下 絵梨香
	大脇 那奈
	八鍬 類子
	堀田 宗一郎
	村上 悠樹 (2023年9月まで)
	小田 清花
	野澤 美奈
	清水 理恵
研究生	李 海澄

#### (1) 分野概要

近年のめざましい医療技術の発展に伴い、高度医療によって救命や延命される機会が向上しました。また、難治性の慢性疾患に関しても、新しい治療法の開発が進んでおり先端医療の恩恵を受ける人々も増えています。成人看護学分野では、このような状況下にある患者や家族の苦痛等を緩和し、安全安楽にその人らしく生活できるよう支援するために、また病気とうまく付き合っていくよう支援するために、重篤期から回復期、セルフマネジメントに至るまで、さらには緩和ケアを含めた専門的看護のあり方と看護支援方法に関する教育や研究を行っています。

#### (2) 研究活動

研究については、以下の2つの主要なテーマについて取り組んでいます。

##### 【慢性的な健康問題を抱える患者および家族の主体的療養を促進するための研究】

慢性疾患を抱え不確かさを感じながら療養する患者や家族が、主体的に症状や生活をマネジメントしていけるよう、様々な視点からの研究に取り組んでいます。自己管理行動の阻害要因と促進要因の解明、受容や意思決定のプロセスの構造化、自己管理の実態やそれが疾患管理に与える影響の調査などを行っています。

##### 【先端・高度医療を受ける患者および家族に対する看護ケアの開発】

疾病や外傷、侵襲的治療によって生命危機状況にある患者の治療に伴う苦痛や不安を緩和し、患者や家族のQOL向上を目指した様々な視点からの研究に取り組んでいます。また、侵襲的治療下にある患者について、療養プロセスにおける体験を構造化することや、治療成功・回復促進に関与する患者要因の探索、患者の治療や看護に携わる医療チームの連携や機能等に関する調査などを行っています。

#### (3) 教育活動

教育については、学部教育では成人看護学を担当しています。2年次では、講義を中心として成人期にある人々の理解と必要な看護の原則について教授しています。3年次前期では、シミュレーションを取り入れた演習で実践に必要な知識と技術、態度の統合を行い、第一線で活躍する看護師による実践論の講義を通して、多様な看護

の可能性について学生の理解や関心の向上を支持しています。そして、3年次後期には、本学附属病院の看護管理者、臨床実習指導者との連携のもとに成人看護学実習を展開しています。また当分野での卒業研究を選択した学生については、学生の知的好奇心を大いに刺激しつつ指導に当たっています。

大学院教育では、当分野の研究指導は、学生個々の興味やテーマを尊重しつつ、学位論文として当該領域の発展に寄与する研究となるよう、ゼミと個別指導を効果的に組み合わせて実施しています。成人領域における看護の専門性の追求と発展を目指した教育、研究指導を行っています。

#### (4) 研究業績

##### [原著]

1. Hotta S, Ashida K, Tanaka M. Night-time detection and response in relation to deteriorating inpatients: A scoping review. *Nursing in critical care*. 2023.04; 29(1); 178-190
2. Kaoru Ashida, Tetsuharu Kawashima, A. C. Molewijk, Janine C de Snoo-Trimpp, Aki Kawakami, Makoto Tanaka. Moral Distress Reduction Using Moral Case Deliberation in Japan: A mixed-methods study *Japan Journal of Nursing Science*. 2023;

##### [書籍等出版物]

1. 川本祐子（分担執筆）、井上智子 編. 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第4版. 医学書院, 2023.11

##### [総説]

1. Mina Nozawa, Soichiro Hotta, Makoto Tanaka. Actual status of pre-discharge knowledge of hospitalised patients with heart failure and measurement tools to assess said knowledge: A scoping review. *Heart and Lung*. 2023.12; 64; 46-54

##### [講演・口頭発表等]

1. Kaoru Ashida, Tetsuharu Kawashima, A. C. Molewijk, Janine C de Snoo Trimp, Aki Kawakami, Makoto Tanaka. Moral Distress Reduction using Moral Case Deliberation in critical care nurses in Japan: A mixed methods study. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.03.10 Tokyo
2. Sumika Oda, Aki Kawakami, Kaoru Ashida, Makoto Tanaka. Developing recommended nursing practices to care for patients with death rattle and their families in hospital wards. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.03.10 Tokyo
3. Mina Nozawa, Soichiro Hotta, Makoto Tanaka. Measurement tools to assess pre-discharge knowledge of patients with heart failure: a scoping review. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.03.10 Tokyo
4. Yuko Kawamoto, Nana Oga, Haruhiko Furusawa, Satoshi Hanzawa, Yasunari Miyazaki, Makoto Tanaka. The experience of patients' families in the process of implementing antigen avoidance for patients with hypersensitivity pneumonitis: A qualitative study. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.03.10 Tokyo
5. Yuko Kawamoto, Yuka Nakahama, Nana Oga, Haruhiko Furusawa, Satoshi Hanzawa, Yasunari Miyazaki, Makoto Tanaka. Healthcare needs in implementing antigen avoidance as perceived by patients with hypersensitivity pneumonitis: A qualitative research. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.03.10 Tokyo
6. Makoto Tanaka, Aki Kawakami, Kayoko Sakagami, Tomoko Terai, Hiroaki Ito.. Influence of abundant nurse staffing on patient-reported outcomes among patients with inflammatory bowel disease in clinical remission. The 18th Europe Crohn's and Colitis Organization 2023.03.01
1. 田中真琴, 川上明希, 阪上佳誉子, 伊藤裕章. 寛解期クローン病患者の食事に対する認識: 生物学的製剤登場による変化. 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01

2. 水野 光, 立入 朋子, 大岡 由賀, 阪上 佳誉子, 田中 真琴, 伊藤 裕章. 痔瘻を合併したクローン病患者の自己効力感の実態調査. 第 14 回 日本炎症性腸疾患学会学術集会 2023.12.01
3. 堀田 宗一郎, 蘆田 薫, 田中 真琴. 入院患者の夜間の臨床的悪化に対応する看護師と医師の連携時の困難に関する質的検討. 第 43 回日本看護科学学会学術集会 2023.12 山口
4. 小田清花, 川上明希, 蘆田薫, 田中真琴. 死前喘鳴を有する患者とその家族に対する看護実践：熟練看護師対象の難易度調査. 日本エンドオブライフケア学会第 6 回学術集会 2023.09.17 群馬
5. 大脇那奈, 田中真琴, 川上明希. ICU におけるせん妄患者をケアする看護師の困難感尺度の開発. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会 2023.03.02

#### [Works]

1. (前田) 小児看護入門シリーズ DVD 教材 日本語版監修 (共著) 第 1 巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第 2 巻 学童/思春期、青年期, 教材, 2010 年 04 月 - 現在

#### [受賞]

1. Outstanding Poster Presentation Award, 2023 年 03 月
2. 第 32 回 (2023 年度) ヘルスリサーチ研究助成<国内共同研究>, 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団, 2023 年 12 月
3. 2023 年度 東京医科歯科大学医学研究奨励賞, 東京医科歯科大学, 2023 年 12 月

#### [社会貢献活動]

1. お茶の水会看護同窓会, 2002 年 04 月 - 現在
2. 日本慢性看護学会 編集委員会委員, 2010 年 04 月 01 日 - 現在
3. 日本慢性看護学会 評議員, 2012 年 04 月 01 日 - 現在
4. 一般社団法人受療者医療保険学術連合会 広報委員会, 2013 年 08 月 21 日 - 現在
5. 四大学平成卒業生の会連合会, 2014 年 06 月 - 現在
6. 一般社団法人薬局共創未来人材育成機構 薬剤師生涯研修センター 企画実行委員 (前田), 2015 年 04 月 01 日 - 現在
7. 日本看護科学学会 査読委員, 2015 年 10 月 01 日 - 現在
8. 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療委員会 委員 (前田), 2016 年 08 月 01 日 - 現在
9. 日本小児がん看護学会 編集委員、査読委員、政策委員 (前田), 2017 年 01 月 01 日 - 現在
10. 社) 日本看護シミュレーションラーニング学会 理事・広報委員長・国際交流委員 (前田), 2018 年 11 月 01 日 - 現在
11. 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (佐々木吉子、田中真琴、森田久美子、山崎智子、高野歩、今津陽子、三隅順子、廣山奈津子、栗林一人、野口綾子), 2021 年 08 月 18 日 - 現在

# 精神保健看護学

## Mental Health and Psychiatric Nursing

教授	谷口麻希 (2023年7月～)
准教授	高野歩 (~2023年6月)
	松長麻美
技術補佐員	小竹理紗
事務補佐員	江波戸夕香 (~2023年12月)
	堀田祐子 (2023年11月～)
	丸山亜希子 (2023年12月～)
大学院生 (博士後期) 5年一貫博士課程	高濱圭子
	富川明子
	栗原淳子
	平岩千明
	及川江利奈
	奈良麻結
	知花文香
	平谷七美
	羽田彩子 (2023年4月～)

### (1) 分野概要

心の健康づくりへの関心の高まりとともに、人々へのメンタルヘルス支援の必要性が指摘されている。また、精神保健福祉施策が見直され、長期入院精神がい者の地域移行を進めるための具体的方向性の提示や、精神病床の機能分化等が図られている。このように精神保健医療福祉を取り巻く状況は変化し、精神看護を専門とする看護師に求められる能力もこれまで以上に大きくなっている。すなわち、精神科領域への社会的ニーズは多様化し続け、精神看護の活動範囲や援助の対象者は飛躍的に拡大しつつある。

こうした状況を踏まえ、当分野では、精神疾患とその処遇に関する正しい知識を身につけ、社会が求める看護ニーズに応えられる精神科看護者の育成を目指すとともに、精神的な看護援助の原理と方法論の確立に向けた研究・教育を行っている。(学部・大学院教育)

本研究分野の主な研究テーマは、精神保健における多職種連携、メンタルヘルスの社会的決定要因、思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援および予防的アプローチ、周産期メンタルヘルス、外国人のメンタルヘルス、精神疾患患者とその家族のケア、精神疾患患者の退院および地域生活促進、精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究等である。

### (2) 研究活動

1. 地域精神保健における多職種連携
2. メンタルヘルスの社会的決定要因 (社会経済的要因、スティグマ等)
3. メンタルヘルスへのライフコースアプローチ (幼少期のトラウマ体験、周産期メンタルヘルス等)
4. グローバルメンタルヘルス

5. 精神疾患患者の退院および地域生活促進
6. 精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究

### (3) 教育活動

当分野では、精神保健と精神看護、双方の視点からあらゆる人の精神的健康の維持・向上を支援するための理念および実践方法について教育を行っている。また、新たな時代のニーズに応える精神看護学の研究の発展に貢献できる研究者の人材育成に力を入れている。

### (4) 教育方針

#### 1) 学部教育

1. 心の健康と看護Ⅰでは、精神看護実践の前提となる、精神疾患の病態、精神科診断学、治療学等の精神医学の基礎知識を習得する。司法精神医療等、精神医療の関連領域における治療の理論や方法について理解する。精神医療・精神保健福祉における法律、制度、施策に関する知識を習得し、わが国における課題について考察する。これらの内容を看護学の視点から再考し、看護職の役割や看護援助への活用について考察する。
2. 地域精神看護学では、様々な精神的健康問題に関する社会状況と支援方法について理解する。地域で生活する精神障害を有する人の健康や生活の質の向上を支援するために必要な社会資源に関する基礎知識を習得する。精神保健医療福祉システムの中で看護職が担う役割について考察する。
3. 精神看護学演習では、演習を通じて精神看護の実践に必要な援助の理論と方法を習得する。精神障害を有する人における精神疾患と生活障害との関連について、セルフケアモデルやストレスモデルによりアセスメントし、必要な看護援助を考案する。援助的な対人関係を構築する技術を身につけ、精神障害を有する人の回復、成長、自立を支援するための知識と技術を身につける。グループワークを通して、他者と協働して学習する能力を養う。
4. 精神看護学実習は、精神障害者に対する理解を深め、自己理解および対人関係を構築、発展させるプロセスを通して、精神看護実践の基本的能力を修得する。地域施設において、地域で生活する精神障害者の社会参加の実態にふれることを通じて、精神障害と生活状況との関連についての理解を深めながら、精神障害者の地域生活支援の方法について学ぶ。また、精神障害者の地域生活の質の向上と社会参加の支援に向けて看護師が担うべき役割について学修する。

#### 2) 大学院教育

1. コンサルテーション論では、看護師の問題解決に必要なコンサルテーションの概念および実践モデルを理解し、高度な看護実践におけるコンサルテーション活動を展開するための基礎能力を養う。
2. 精神保健看護学特論Ⅰでは、人々の精神状態や発達課題について判断するための基準や枠組み、ならびに様々な年代や健康状態の人々に対する精神的援助を支える技術や方法とその理論的な背景について学修する。精神医学的診断法や心理測定法、精神療法を始めとする様々な精神科治療の技術と方法についての理解を深め、看護学の視点に基づく評価と援助を実践する能力を養う。
3. 精神保健看護学演習Ⅰでは、精神保健看護学に関する研究のクリティークを通し、精神保健看護学分野における研究の動向や課題について理解を深める。
4. 精神保健看護学特論Ⅱでは、精神的な看護援助の方法論的な確立に向けた看護的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得する。精神健康の質的向上と精神医療保健看護システムの変革に寄与し得る学際的な研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究ができる能力を修得する。

### (5) 研究業績

#### [原著]

1. Yasuma, N; Nishi, D; Watanabe, K; Ishikawa, H; Tachimori, H; Takeshima, T; Umeda, M; Kawakami, N. Urban upbringing and Internet addiction in Japan: A cross-sectional, multilevel study with retrospective recall JOURNAL OF BEHAVIORAL ADDICTIONS. 2023.10; 12; 277-278

2. Ayako Hada, Yukiko Ohashi, Yuriko Usui, Toshinori Kitamura. A Scale of Parent - to - Child Emotions (SPCE): Development and validation of a short form Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2023.10; 2(4); e148
3. Ayako Hada, Yukiko Ohashi, Yuriko Usui, Toshinori Kitamura. A scale of parent - to - child emotions: Adaptation, factor structure, and measurement invariance Family Process. 2023.08; 00; 1-25
4. Yukiko Ohashi, Mizuki Takegata, Satoru Takeda, Ayako Hada, Yuriko Usui, Toshinori Kitamura. Is Your Pregnancy Unwanted or Unhappy? Psychological Correlates of a Cluster of Pregnant Women Who Need Professional Care Healthcare. 2023.08; 11(15); 2196
5. Fukasawa M, Nishi D, Umeda M, Akiyama T, Horikoshi N, Yasumura S, Yabe H, Suzuki Y, Bromet EJ, Kawakami N. Effects of disaster-related traumatic events on worry about radiation and COVID-19: A decade after the Fukushima nuclear power plant accident. Journal of psychiatric research. 2023.07; 163; 135-141
6. Igarashi M, Yamaguchi S, Sato S, Shiozawa T, Matsunaga A, Ojio Y, Fujii C. Influence of multi-aspect job preference matching on job tenure for people with mental disorders in supported employment programs in Japan Psychiatric Rehabilitation Journal. 2023.06; 46(2); 101-108
7. Ayako Hada, Satoru Takeda, Masumi Imura, Toshinori Kitamura. Development and Validation of a Short Version of the Scale for Parent to Baby Emotions (SPBE-20): Conceptual Replication among Pregnant Women in Japan Psychology. 2023.06; 14(06); 1085-1110
8. Saki Oguro, Yasutaka Ojio, Asami Matsunaga, Takuma Shiozawa, Shin Kawamura, Goro Yoshitani, Masanori Horiguchi, Chiyo Fujii. Mental health help-seeking preferences and behaviour in elite male rugby players BMJ Open Sport & Exercise Medicine. 2023.05; 9(2); e001586
9. Toshinori Kitamura, Yuriko Usui, Mikiyo Wakamatsu, Mariko Minatani, Ayako Hada. What Are The Core Symptoms of Antenatal Depression? A Study Using Patient Health Questionnaire-9 among Japanese Pregnant Women in the First Trimester Healthcare. 2023.05; 11(10); 1494
10. Ayumi Takano, Koki Ono, Kyosuke Nozawa, Makito Sato, Masaki Onuki, Jun Sese, Yosuke Yumoto, Sachio Matsushita, Toshihiko Matsumoto. Wearable Sensor and Mobile App-Based mHealth Approach for Investigating Substance Use and Related Factors in Daily Life: Protocol for an Ecological Momentary Assessment Study. JMIR Res Protoc. 2023.04; 12; e44275
11. Hayashi C, Ogata S, Toyoda H, Tanemura N, Okano T, Umeda M, Mashino S. Risk factors for fracture by same-level falls among workers across sectors: a cross-sectional study of national open database of the occupational injuries in Japan Public Health. 2023.03; 217; 196-204
12. Takayuki Harada , Kazutaka Nomura , Toshiaki Baba , Tomohiro Shirasaka , Ayumi Takano , Shogo Kanamori. Development and validation of Tagalog versions of the Drug Abuse Screening Test-20 (DAST-20) and Stimulant Relapse Risk Scale (SRRS) for drug users in the Philippines PLOS ONE. 2023.01; 18 (1); e0280047
1. 永井 智子, 米倉 佑貴, 梅田 麻希, 麻原 きよみ, 川崎 千恵, 小林 真朝, 嶋津 多恵子, 遠藤 直子, 大森 純子, 三森 寧子, 江川 優子, 永田 智子, 佐伯 和子, 佐川 きよみ, 小西 美香子. 自治体保健師のための地区活動に関する評価尺度の開発 地区活動の内容, 保健師の認識, 組織環境に着目して 日本公衆衛生雑誌. 2023.11; 70(11); 759-774
2. 小黒 早紀, 小塩 靖崇, 松長 麻美, 藤井 千代. アスリートの精神不調・障害に対する薬物治療の検討 IOC 声明文を踏まえて スポーツ精神医学. 2023.08; 20; 58-65
3. 小池純子, 池田朋広, 松長麻美, 常岡俊昭, 小池治, 佐藤裕大, 黒田治, 稲本淳子. 精神障害者の危機的状況を未然に防ぐ地域支援のあり方について—他害行為を要件に非自発的入院を行った精神障害者の家族に対するアンケート調査から 日本社会精神医学会雑誌. 2023.06; 32(2); 103-113
4. 五十嵐 百花, 山口 創生, 佐藤 さやか, 塩澤 拓亮, 松長 麻美, 小塩 靖崇, 藤井 千代. IPS 型就労支援を利用した精神障害をもつ人における就職・就労週数の予測要因 精神神経学雑誌. 2023.03; 125(3); 183-193

**[総説]**

1. 竹村 和子, 谷口 麻希. 【日本に住む外国人の子どもへのケア】統計や研究結果からみる日本在住の外国人の子どもの現状 日本在住の外国人へのサポート 小児看護. 2023.09; 46(9); 1041-1047
2. 高野 歩, 熊倉 陽介, 松本 俊彦. アルコール問題に対するハームリダクションアプローチ —理念と海外における実践を中心に— 精神神経学雑誌. 2023.05; 125(5); 352-364
3. 及川 江利奈, 栗林 一人, 栗原 淳子, 高野 歩. 精神科における看護師から患者への暴力, 虐待: スコーピングレビュー 日本看護科学会誌. 2023.03; 42; 811-818
4. 竹村 和子, 梅田 麻希. 多文化共生社会における健康支援の挑戦 「加東げんきサロン」と「国際まちの保健室 in 西宮」報告 兵庫県立大学地域ケア開発研究所研究活動報告集. 2023.03; 8; 19-22
5. 梅田 麻希, 竹村 和子, 本田 順子, 築田 誠, 塩見 美抄. 糖尿病予防に向けたポピュレーション・アプローチの開発 —自治体と大学の協働による検討— Phenomena in Nursing. 2023.03; 6(1); 12-15

**[講演・口頭発表等]**

1. Yuko Ishizaki, Minako Iwasaki, Tomokatsu Yamazaki, Ryo Kadoya, Takahiro Tahara, Emi Furukawa, Maki Taniguchi. Questionnaire Survey Regarding Immunization Implementation Status in Infant Homes in Japan. The 18th Congress of Asian Society for Pediatric Research 2023.11.11 Online
2. Ayumi Takano, Koki Ono, Makito Sato, Masaki Onuki, Jun Sese, Toshihiko Matsumoto. Impact of methamphetamine use on cardiovascular risk and sleep deprivation: objective assessment using wearable activity tracker and mobile application. The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 85th Annual Scientific Meeting 2023.06.20 Denver, Colorado
3. Naonori Yasuma, Kotaro Imamura, Kazuhiro Watanabe, Mako Iida, Ayumi Takano. Cannabis use in adolescence and the later onset of bipolar disorder: A systematic review and meta-analysis of prospective cohort studies. The College on Problems of Drug Dependence (CPDD) 85th Annual Scientific Meeting 2023.06.19 Denver, Colorado
4. Nanami Hiratani, Makoto Tokushige, Koki Ono, Hiroki Asaoka, Yuki Miyamoto, Masaru Tateno, Ayumi Takano. Correlation between mental health status and game-use problems among adolescent and young adult outpatients in Japan. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2023.03.10 Tokyo
5. Makoto Tokushige, Koki Ono, Hiroki Asaoka, Nanami Hiratani, Yuki Miyamoto, Masaru Tateno, Ayumi Takano. The relationship between game-use problems and family function among adolescent and young adult outpatients and their parents in Japan. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2023.03.10 Tokyo
1. 澤田宇多子, 飯田真子, 臼田謙太郎, 羽澄恵, 岡崎絵美, 小倉加奈子, 片岡真由美, 佐々木那津, 小塩靖崇, 松長麻美, 梅本育恵, 牧野みゆき, 中下綾子, 神川ちあき, 黒田直明, 久我弘典, 藤井千代, 西大輔. 心のサポーター養成事業による日本の地域住民のスティグマ低減効果の検討: 前後比較試験. 第30回日本行動医学会学術総会 2023.12.03
2. 福地成, 石崎優子, 古川恵美, 井上靖子, 増野園恵, 林知里, 梅田麻希. 東日本大震災による孤児を里子として迎え入れた里親のインタビュー. 2023.11.14 弘前市
3. 工藤 美子, 沼田 富久美, 遠藤 佑子, 梅田 麻希, 渡邊 竹美, 鎌田 奈津, 越智 真奈美, 原田 紀子, 清野 仁美, 玉木 敦子, 山崎 峰夫. メンタルヘルスニーズをもつ妊婦の対応に関する産科医療施設に勤務する看護職調査. 日本周産期メンタルヘルス学会学術集会抄録集 2023.10.01
4. 工藤 美子, 沼田 富久美, 遠藤 佑子, 梅田 麻希, 渡邊 竹美, 鎌田 奈津, 越智 真奈美, 原田 紀子, 清野 仁美, 玉木 敦子, 山崎 峰夫. 兵庫県内にある産科医療施設のメンタルヘルスニーズをもつ妊婦の対応に関する実態調査. 日本周産期メンタルヘルス学会学術集会抄録集 2023.10.01
5. 高野歩. ハームリダクションの新たな展開: ハームリダクションに基づく治療的支援. 第119回日本精神神経学会学術総会 2023.06.23 横浜

6. 千葉 理恵, 梅田 麻希, 石田 祐樹, 西脇 可織, 橋本 健志, 木戸 芳史, 廣田 美里, 林 佑太, 梶原 友美, 野津 美由紀, 山口 玲子. 身体合併症をもつ精神科入院患者が、身体科病院で円滑に治療を受けるためにどのように連携できるか 精神科・身体科の看護師、精神科医の経験をもとに. 日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 2023.05.01
7. 五十嵐百花, 山口創生, 佐藤さやか, 塩澤拓亮, 松長麻美, 小塩靖崇, 藤井千代. IPS 型就労支援利用者における 就労条件の希望マッチ度と就労期間の関連. 第 17 回日本統合失調症学会 2023.03.26

### [受賞]

1. ベストレビュー賞, 日本公衆衛生学会 (谷口麻希), 2023 年 10 月

### [社会貢献活動]

1. 一般財団法人 こころのバリアフリー研究会 評議員 (松長麻美), 2013 年 - 現在
2. 日本看護科学学会英文誌編集委員会 編集委員 (谷口麻希), 2015 年 09 月 20 日 - 現在
3. 日本精神障害者リハビリテーション学会 研修委員 (松長麻美), 2016 年 - 現在
4. 日本公衆衛生学会 国際化推進委員会 委員 (谷口麻希), 2019 年 11 月 01 日 - 現在
5. 日本社会精神医学会 多職種協働委員 (松長麻美), 2020 年 - 現在
6. 日本公衆衛生学会 日本公衆衛生雑誌査読委員 (谷口麻希), 2021 年 04 月 01 日 - 現在
7. NPO 法人アジア女性自立プロジェクト 理事 (谷口麻希), 2021 年 05 月 29 日 - 現在
8. 日本看護科学学会 表彰委員会 委員 (谷口麻希), 2021 年 07 月 16 日 - 現在
9. お茶の水看護学研究会 編集委員 (松長麻美), 2022 年 - 現在
10. 日本社会精神医学会雑誌 査読委員 (松長麻美), 2022 年 - 現在
11. 独立行政法人国際協力機構「難民を含む子どもに対するコミュニティレベルの精神保健・心理社会的支援の強化」国内支援委員会 委員 (谷口麻希), 2022 年 01 月 11 日 - 2023 年 08 月 31 日
12. 周産期メンタルヘルス学会 評議員 (谷口麻希), 2022 年 01 月 31 日 - 現在
13. 第 26 回東アジア看護学研究者フォーラム (EAFONS) 査読委員 (松長麻美), 2022 年 09 月 - 2023 年 03 月
14. 第 19 回日本周産期メンタルヘルス学会 プログラム委員 (松長麻美), 2022 年 12 月 - 2023 年 10 月
15. 東京都周産期医療ネットワークグループ事業区中央部ブロック 研修会 (松長麻美), 2023 年 01 月 17 日
16. 第 17 回日本統合失調症学会 一般演題座長 (松長麻美), 2023 年 03 月 25 日
17. 第 19 回日本周産期メンタルヘルス学会 査読委員 (松長麻美), 2023 年 04 月 - 2023 年 10 月
18. 日本公衆衛生学会 代議員 (谷口麻希), 2023 年 07 月 01 日 - 現在
19. 独立行政法人国際協力機構 トルコにおける地震被災地域の心理社会的支援に係る国内支援委員会 委員 (谷口麻希), 2023 年 07 月 01 日 - 現在
20. 精神科認定看護師教育課程 精神科看護学 3 精神科看護実践における援助関係 患者看護師関係に焦点を当てた事例検討会 (高濱圭子), 一般社団法人日本精神科看護協会, 2023 年 07 月 22 日
21. 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 (松長麻美), 2023 年 10 月 - 現在
22. 第 19 回日本周産期メンタルヘルス学会 座長 (松長麻美), 2023 年 10 月 28 日
23. 日本精神障害者リハビリテーション学会 選挙管理委員会 委員長 (松長麻美), 2023 年 10 月 31 日 - 2024 年 03 月 31 日

# 小児・家族発達看護学

## Child and Family Nursing

准教授	岡光	基子
助教	矢郷	哲志
技術補佐員	厚美	彰子
大学院生	鈴木	香代子
大学院生	勝本	祥子
大学院生	朝見	優子
大学院生	佐藤	文敬
大学院生	鈴木	嘉代子
大学院生	松崎	愛
研究生	岡林	優喜子

### (1) 分野概要

当分野では、小児看護学に関する教育と研究を行っている。

学部教育では、Life-span Development の視点から、小児とその家族、そしてそれらを取り巻く環境を理解し、自ら考え、より良い看護のあり方を考案することができる実践家の育成に努めている。

大学院教育では、乳幼児精神保健に関する専門的知識とスキルを持ち、小児看護の発展に寄与しうる研究者や実践家の育成に取り組んでいる。

研究においては、乳幼児精神保健を基盤とし、親子の健やかな発達と Well-being を促すことを目指し、乳幼児とその家族に対する育児支援システムの構築を主要なテーマとして取り組み、研究成果を報告している。

また、Family Partnership Model に基づく育児支援講習会を開催し、乳幼児とその家族に関わる専門職教育にも力を入れている。

### (2) 研究活動

乳幼児精神保健を基盤とし、主に乳幼児の発達、親子の相互作用、乳幼児とその家族に対する早期育児支援介入に関する研究に取り組んでいる。

研究の主なテーマは、

- 1) 早産・低出生体重児、先天性疾患、慢性疾患、発達障害、女性受刑者の子どもなど、様々な背景をもつ乳幼児期の親子相互作用とその関連要因
- 2) 乳幼児精神保健の理論に基づく育児支援介入
- 3) ファミリーパートナーシップに基づく育児支援プログラム導入による介入効果の検証
- 4) 生後早期における父子の関係性支援介入
- 5) 周産期における母児エピゲノムの体系的解析
- 6) 幼児の社会—情緒的、行動上の問題に関するアセスメントツールの開発
- 7) 小児領域の看護師による倫理的実践の構造と教育プログラムの開発
- 8) 慢性疾患をもつ子どもと家族のための患者家族滞在施設の役割の検討
- 9) 子どもの問題行動と親のペアレンティングに焦点を当てたピア主導型育児支援プログラムの開発
- 10) 乳幼児と高齢者との世代間交流が乳幼児の発達に及ぼす影響などである。

国内外の研究施設と情報交換しながら研究活動を行い、5) においては、東京医科歯科大学病院周産女性診療科、発生発達病態学分野、難治疾患研究所、国立健康・栄養研究所と共同研究を行っている。

### (3) 教育活動

#### 1) 学部教育

小児看護学Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、総合実習Ⅱ、卒業論文Ⅱの他、フィジカルアセスメント、癒しのケア論、インディペンデントスタディ、看護の統合と実践を担当している。卒業論文Ⅱにおいては、4名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口頭発表をするまでを指導した。また、歯学部口腔保健衛生学専攻の保健医療サービスの講義を担当した。

#### 2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論Ⅰ・Ⅱ、小児家族発達看護学演習Ⅰ、特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、インディペンデントスタディ A・B および共通科目である家族看護学特論の他、先端侵襲緩和ケア看護学演習Ⅰと急性・重症患者フィジカルアセスメントの講義を担当した。

### (4) 臨床活動および学外活動

- 1 型糖尿病の患者・家族会 (東京わかまつ会) の運営に携わっている。

### (5) 研究業績

#### [原著]

1. Imai C, Takimoto H, Kurotani K, Fudono A, Tarui I, Aoyama T, Yago S, Okamitsu M, Miyasaka N, Sato N. Diet Quality and Its Relationship with Weight Characteristics in Pregnant Japanese Women: A Single-Center Birth Cohort Study. *Nutrients*. 2023.04; 15(8);
2. Yago S, Takahashi Y, Tsukamoto E, Saito A, Saito E. Use of the Newborn Behavioral Observations System as an early intervention for infants and their parents: A scoping review. *Early human development*. 2023.06; 183; 105811

#### [総説]

1. 厚美彰子, 青木雅子. アトピー性皮膚炎をもつ子どものセルフケアに関する文献レビュー 日本小児看護学会誌. 2023; 32; 108-115

#### [講演・口頭発表等]

1. Yago S, Okamitsu M, Day C. Empowering Parents, Empowering Communities: A pilot trial of peer-led parenting program in Japan. World Association of Infant Mental Health (WAIMH) 18th World Congress 2023.08.16 Dublin
2. Komoto K, Suzuki K, Okawa H, Okamitsu M, Yago S. Creating a parenting community of mothers to nurture children with developmental disorders based on IMH. World Association of Infant Mental Health (WAIMH) 18th World Congress 2023.08.16 Dublin
3. Fumitaka Sato, Satoshi Yago, Shoko Katsumoto, Yuko Asami, Kayoko Suzuki, Ai Matsuzaki, Motoko Okamitsu. The mental health of parent caring for technology-dependent children at home: a scoping review. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 2023.03.10
4. Shoko Katsumoto, Motoko Okamitsu, Satoshi Yago.. Characteristics of pain in the affected limb in young adult survivors with osteosarcoma of the lower extremity in Japan . 26th East Asia Forum of Nursing Scholars(EAFONS 2023) 2023.03.10 Tokyo, Japan
5. Shoko Atsumi, Masako Aoki. Literature review of self-care for children with atopic dermatitis. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars ,2023 2023.03.10 Japan
1. 鈴木嘉代子, 幸本敬子, 岡光基子, 矢郷哲志. 親子の関係性に焦点を当てた地域における育児支援. 第43回日本看護科学学会学術集会 2023.12.09 山口
2. 影山葉子, 門間晶子, 加藤明美, 小林裕美, 目麻里子, 矢郷哲志, 野々山友, 浅野みどり. 改めて、家族看護の専門性とは? ~実践が診療報酬につながる未来に向けて~. 日本家族看護学会第30回学術集会 2023.09.09 大阪

3. 勝本祥子, 岡光基子, 矢郷哲志, 阿江啓介, 早川景子, 米本司, 五木田茶舞. 下肢に骨肉腫を罹患した AYA 世代のサバイバーの患肢の痛みと心理的要因の関連. 第 5 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会 2023.05.13 東京

### [社会貢献活動]

1. 乳幼児保健学会 理事 (岡光基子), 2012 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
2. 乳幼児保健学会 事務局 (矢郷哲志), 乳幼児保健学会, 2016 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
3. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 会計監査 (岡光基子), 東京わかまつ会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
4. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 運営スタッフ (矢郷哲志), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
5. 日本体育大学 非常勤講師 (岡光基子), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
6. 日本乳幼児医学・心理学研究 査読委員 (岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
7. お茶の水看護学研究会 編集委員 (岡光基子), 2016 年 04 月 01 日 - 現在
8. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)」DD ユニットファミリーサポート保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師 (岡光基子), 東京医科歯科大学, 2016 年 07 月 20 日 - 現在
9. JNCAST 講習会 講師 (岡光基子), 2017 年 08 月 26 日 - 現在
10. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師 (岡光基子), 2017 年 09 月 28 日 - 現在
11. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)」DD ユニットファミリーサポート 保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」講師 (矢郷哲志), 2017 年 09 月 28 日 - 現在
12. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師 (矢郷哲志), 2017 年 09 月 28 日 - 現在
13. 日本体育大学 特別講師 (矢郷哲志), 2018 年 04 月 01 日 - 現在
14. 乳幼児保健学会 評議員 (矢郷哲志), 2019 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
15. お茶の水看護学雑誌 査読委員 (矢郷哲志), お茶の水看護学研究会, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
16. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」(小児看護実践基盤コース) 作成協力 (矢郷哲志), 日本小児看護学会, 2019 年 05 月 - 現在
17. 日本小児看護学会「人材養成研修 e-learning プログラム」(小児看護実践基盤コース) 講師 (岡光基子), 日本小児看護学会, 2019 年 05 月 22 日 - 現在
18. 日本乳幼児医学・心理学会 理事、副編集委員長、編集委員 (岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2020 年 04 月 01 日 - 現在
19. 静岡県立大学大学院看護学研究科 非常勤講師 (岡光基子), 2020 年 04 月 01 日 - 現在
20. 文京保健所業務継続のための応援派遣 (岡光基子), 2020 年 04 月 08 日 - 2023 年 03 月 31 日
21. 文京保健所業務継続のための応援派遣 (矢郷哲志), 2020 年 04 月 08 日 - 2023 年 03 月 31 日
22. 一般社団法人日本家族看護学会第 30 回学術集会 査読委員 (矢郷哲志), 一般社団法人日本家族看護学会, 2022 年 04 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
23. 一般社団法人日本家族看護学会 社会活動・政策委員会 委員 (矢郷哲志), 一般社団法人日本家族看護学会, 2022 年 06 月 11 日 - 現在
24. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS 査読委員 (矢郷哲志), 2022 年 09 月 01 日 - 2023 年 03 月 31 日
25. 一般社団法人日本家族看護学会学会誌 査読委員 (矢郷哲志), 一般社団法人日本家族看護学会, 2022 年 10 月 01 日 - 2024 年 08 月 31 日

26. 日本看護倫理学会第 17 回大会 企画委員 (岡光基子), 2023 年 05 月 01 日 - 2024 年 06 月 30 日
27. 厚生労働大臣指定柔道整復師専科教員認定講習会 講師 (矢郷哲志), 公益社団法人全国柔道整復学校協会, 2023 年 06 月 01 日 - 現在
28. 柔道整復師専科教員認定講習会 非常勤講師 (岡光基子), 公益社団法人全国柔道整復学校協会, 日本医学柔整鍼灸専門学校, 2023 年 06 月 10 日 - 現在
29. 日本乳幼児医学・心理学会 学会のいままでを考える座談会企画 (岡光基子), 日本乳幼児医学・心理学会, 2023 年 10 月 22 日
30. KEIO SFC JOURNAL 慶應 SFC 学会 査読委員 (岡光基子), 慶應 SFC 学会, 2023 年 12 月 25 日 - 現在

## 在宅・緩和ケア看護学分野

### Department of Home Health and Palliative Care Nursing

#### (1) 分野概要

当分野は、これから急速に進む超高齢人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

このために、分野の教員や大学院生を含む全構成員が力を合わせて、全世代の人々が最期まで安心安全に過ごせる「地域包括ケアシステム」や「在宅・緩和ケアシステム」の構築に向けて、看護学研究者が果たせる役割の大きさは甚大であると考えています。

#### (2) 研究活動

分野名である「在宅・緩和ケア看護学」が表すように、当分野では「地域包括ケア」と「在宅看護」をキーワードとした幅広いテーマについて多彩な研究を精力的に進めています。

まず一つ目は、ケアの受け手に直接的に役立つテーマである、入退院支援、エンドオブライフケア、在宅緩和ケア、施設看取り、認知症ケア、レスパイトケア、治療後の在宅療養者のフレイル予防などの「個別ケアの発展」に貢献する研究。

二つ目は、ケア提供者自身にとって有用であり、ひいてはケアの受け手に間接的に役立つテーマとなる、医療介護連携、産官学民連携、在宅ケア管理、離職防止、スタッフ教育などの「ケア提供者、組織、地域のシステムの発展」につながる研究。

三つ目は、人口減少社会を見据えて、我々ケア提供者の人材の最大活用と限られた資源におけるケアの生産性向上を目指し、パーソナルヘルスレコードの活用やデータヘルスの推進が進むなか、医療介護レセプト情報、介護施設等で集積されているケア記録、在宅ケア領域で支払い請求上集積されている在宅ケア記録等の解析による看護の見える化や効果のエビデンス化に寄与するビッグデータを扱う研究。

四つ目は、科学技術 技術革新がヘルスケア業界に急速に導入される時代的背景のなか、看護の視点で行う、見守り機器や介護ロボットの導入応用に繋がる研究、センシング機器等を活用した連続観察による効果的なケア追及を行うための看工連携研究やトランスレーショナルリサーチ。

以上のように、当研究室では、超高齢・人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく“個別ケア”、“地域システム”、“ビッグデータ”、“科学技術”の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、社会的ニーズに看護が応えることを目指して、幅広い研究テーマを展開・追及していきます。

#### (3) 教育活動

学部教育

2年生の在宅看護学Ⅰでは、在宅ケアにおける制度、および地域社会における保健福祉医療の資源等についての基礎的内容について学びます。

3年生の在宅看護学Ⅱ、在宅看護学演習、在宅看護学実習では、施設医療からの移行期から在宅ターミナルに

至るまでの訪問看護に関する仕組み、看護技術、他職種連携等の理論と実践、さらに介護保険 医療保険等、諸制度のもとでの療養支援に関する制度利用の仕組み、サービス提供体制、ケアマネジメントについて学びます。演習では具体的な訪問看護技術、および看護の展開を学びます。臨地実習においては、訪問看護ステーションの実習のみならず、地域包括支援センターにおけるケアマネジメント、予防介護に関する活動の実際、および病院の退院調整部門における退院支援の実際について体験を通して理解を深めていきます。

4年生の緩和ケア看護学I、緩和ケア看護学IIでは、エンドオブライフ期にある患者とその家族のもつ全人的な苦痛とその緩和、看護支援、多職種チームアプローチ等について学びます。総合実習および卒業研究では、4年間で学習した知識と技術を統合し、複雑な社会背景を持ち、様々な病状 病期にある在宅療養者およびその家族に対し、主体的に看護実践できる力をつけていきます。また、看護の統合と実践実習で学習した多職種との連携、医療安全、管理的視点を踏まえ、在宅医療介護チームの中での看護師の役割を実践の中で学んでいきます。卒業研究では、実際の在宅療養者や地域住民、医療介護従事者からの調査データを用いて、これまで学習した知識や技術を俯瞰的に捉え、在宅療養者や地域住民、在宅医療介護従事者に役立つエビデンス構築を、体験を通して学びます。さらに看護研究の視点からも看護の理解を深め、将来、看護研究のリーダーを担う基礎力を身につけていきます。

#### 大学院教育

在宅・緩和ケア看護学特論Iでは、地域包括ケアシステムの構築の重要性と実際の理解を深め、地域包括ケアシステム構築に向けた看護の役割について考察を進めていきます。

在宅ケア看護学演習Iでは、文献レビューを通して、超高齢人口減少社会における在宅看護・地域包括ケアシステムの在り方、及び在宅療養における科学技術 ビッグデータの活用に関する研究動向を捉えることを目的に行っています。

在宅 緩和ケア看護学特論IIでは、在宅・緩和ケア看護学に関連する社会情勢の変化、諸制度および地域社会における看護提供の仕組み等を国内外の研究論文および実践の知見等により探求するとともに、在宅ケア看護の専門的看護実践の研究を計画し、学位論文作成につながる研究に取り組み、自立して研究できる能力を習得していきます。

#### (4) 教育方針

これから急速に進む超高齢 人口減少社会に向けて、ケアの受け手となる療養者、そしてケア提供者となる看護職を含む医療介護職双方が支えあい、やりがいや生きがいを持って、住み慣れた地域で過ごしていくことを目指した学問的知見を培うことを目標としています。

#### (5) 臨床活動および学外活動

1. 介護及び医療レセプト分析による疾患並びに状態別の最適訪問看護提供パッケージの提案と自治体担当者向けの訪問看護実態可視化ツールの開発（厚生労働省：2021年04月-2024年03月）
2. 工学技術を活用した環太平洋アジア地域における認知症家族介護者支援モデル開発（文部科学省/日本学術振興会：2020年4月 - 2024年3月）
3. 訪問看護と介護の連携促進のための慢性疾患高齢者向け早期生活マネジメント指針の開発（文部科学省/日本学術振興会：2018年4月-2024年3月）
4. 工学技術とケア情報を統合した在宅高齢者と家族と医療介護職向け看取り支援IoT 開発（文部科学省/日本学術振興会：2021年4月-2025年3月）

#### (6) 臨床上の特色

複雑な社会背景を持ち、様々な病状・病期にある在宅療養者およびその家族に対する統合的な看護実践が本分野の臨床上の特色である。また、多職種との連携、社会制度を理解した上での調整、医療安全等、管理的視点を在宅医療介護チームの中で発揮することも看護師の役割であることも特色である。超高齢人口減少社会に向けて今後ますます重視されていく“個別ケア”、“地域システム”、“ビッグデータ”、“科学技術”の4つをキーワードに、異分野・異業種連携そして国際的な連携を積極的に行いながら、在宅看護臨床として、臨床的・学術的に社会的ニーズに応えることも求められる。

## (7) 研究業績

### [原著]

1. Miya Aishima, Takako Ishikawa, Kasumi Ikuta, Maiko Noguchi-Watanabe, Sayuri Nonaka, Kunihiko Takahashi, Tatsuhiko Anzai, Sakiko Fukui. Unplanned Hospital Visits and Poor Oral Health With Undernutrition in Nursing Home Residents. *J Am Med Dir Assoc.* 2023.12; 24(12);1855-1860.e1
2. Katsumi Nasu, Mitsunori Miyashita, Kayo Hirooka, Takuro Endo, Hiroki Fukahori. Ambulance use and emergency department visits among people with dementia: A cross-sectional survey. *Nurs Health Sci.* 2023.12; 25(4); 712-720
3. Fumi Ohtake, Maiko Noguchi-Watanabe, Kumiko Morita. the process of home-visiting nurse supporting people with mental disorders *International Journal of Environmental Research and Public Health.* 2023.10; 20;
4. Igarashi, M; Kawaguchi, T; Shiozawa, T; Yamaguchi, S. Conversation topics in psychiatric consultations conducted with and without a shared decision-making tool: A qualitative content analysis *PATIENT EDUCATION AND COUNSELING.* 2023.10; 118; 108045
5. Kayo Hirooka, Hiroki Fukahori, Ayako Ninomiya, Sakiko Fukui, Kunihiko Takahashi, Tatsuhiko Anzai, Tomoaki Ishibashi. Impact of family involvement and an advance directive to not hospitalize on hospital transfers of residents in long-term care facilities. *Arch Gerontol Geriatr.* 2023.09; 117; 105183
6. Akari Higuchi, Sakiko Fukui, Haruka Tanaka, Yoko Higuchi, Momoe Utsumi, Tatsuto Suzuki, Akihiko Ikoma. An Academic-Industry Collaborative Research Activity related to "Care DX" from a Nursing Perspective: Focusing on Nighttime Itching in Older Adults using Sensor Technology. *Geriatrics & Gerontology International.* 2023.09; in press.;
7. Xian Li Hong, Ling Jie Cheng, Ruo Chen Feng, Jorming Goh, Bibek Gyanwali, Sakiko Itoh, Wai San Wilson Tam, Xi Vivien Wu. Effect of physio-cognitive dual-task training on cognition in pre-ageing and older adults with neurocognitive disorders: A meta-analysis and meta-regression of randomized controlled trial. *Arch Gerontol Geriatr.* 2023.08; 116; 105161
8. Tomomi Sakano, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Sakiko Fukui. Impact of home-visit nursing service use on costs in the last 3 months of life among older adults: A retrospective cohort study. *J Nurs Scholarsh.* 2023.08;
9. Kana Kodama, Shozo Konishi, Shirou Manabe, Katsuki Okada, Junji Yamaguchi, Shoya Wada, Kento Sugimoto, Sakiko Itoh, Daiyo Takahashi, Ryo Kawasaki, Yasushi Matsumura, Toshihiro Takeda. Impact of Electronic Medical Record-connected Questionnaire on Efficient Nursing Documentation: A Study of Usability and Efficacy. *JMIR Nurs.* 2023.08; 6; e51303
10. Keiko ISHII, Yukie TAKEMURA, Naoko ICHIKAWA. Development of a Group Organizational Learning Activity Inventory for the Implementation and Sustainability of Evidence-Based Practice in Nursing *Journal of Nursing Management.* 2023.07; 2023; 1-17
11. Rie R Yotsu, Diabate Almamy, Bamba Vagamon, Kazuko Ugai, Sakiko Itoh, Yao Didier Koffi, Mamadou Kaloga, Ligué Agui Sylvestre Dizoé, Kouamé Kouadio, N'guetta Aka, Luc Kowaci Gontran Yebooue, Koffi Aubin Yao, Ronald E Blanton. An mHealth App (eSkinHealth) for Detecting and Managing Skin Diseases in Resource-Limited Settings: Mixed Methods Pilot Study. *JMIR Dermatol.* 2023.06; 6; e46295
12. Nur Lidiya Abdul RASHID, Yihong LEOW, Piyanee KLAININ-YOBAS, Sakiko ITOH, W.U. Vivien Xi. The Effectiveness of a Therapeutic Robot, 'Paro', on Behavioural and Psychological Symptoms, Medication Use, Total Sleep Time and Sociability in Older Adults with Dementia: A Systematic Review and Meta-Analysis *International Journal of Nursing Studies.* 2023.06; 145; 104530
13. Yuriko Mashida, Hiroki Fukahori, Sumie Ikezaki, Sakiko Fukui. Patterns of visiting nurse services for older adults in Japanese residential facilities: A latent class analysis. *Geriatr Gerontol Int.* 2023.05; 23(5); 326-333 Tomoko Ikeuchi, Sakiko Itoh, Hiroyasu Miwa, Kentaro Watanabe, Tomoko Wakui. Does Smartphone Use Make Older Adults Feel Younger? A Cross-Sectional Online Survey during the COVID-19 Pandemic. *Int J Environ Res Public Health.* 2023.01; 20(3);

14. Eltaybani S, Kitamura S, Fukui C, Igarashi A, Sakka M, Noguchi-Watanabe M, Takaoka M, Inagaki A, Yasaka T, Koyanashi H, Yamamoto-Mitani N.. Toward developing care outcome quality indicators for home care for older people: A prospective cohort study in Japan. *Geriatrics & Gerontology International*.. 2023;
  15. Shinohara M, Sakka M, Yasaka T, Inagaki A, Fukui C, Noguchi-Watanabe M, Igarashi A, Yamamoto-Mitani N.. Association between advance care planning for older adults and family caregivers' sense of security in home care settings: A prospective cohort study. *Health & Social Care in the Community*. 2023;
  16. Oguro S, Ojio Y, Matsunaga A, Shiozawa T, Kawamura S, Yoshitani G, Horiguchi M, Fujii C. Mental health help-seeking preferences and behaviour in elite male rugby players. *BMJ open sport & exercise medicine*. 2023.05; 9(2); e001586
1. 笠原邑斗, 菅野雄介, 松尾まき, 白濱伴子, 瀧澤美奈, 廣島 麻揚. 男性看護師における Hope を媒介としたワーク・エンゲイジメントのプロセスモデルの検討: 混合研究法 (in press) 日本看護科学会誌. 2023.09;
  2. 川口 敬之, 阿部 真貴子, 山口 創生, 五十嵐 百花, 小川 亮, 塩澤 拓亮, 安間 尚徳, 佐藤 さやか, 宮本 有紀, 藤井 千代. 地域精神保健福祉研究における患者 市民参画の研究段階および研究テーマに関する見解 複数の立場の視点に基づく質的内容分析 医療と社会. 2023.08; 33(2); 257-270
  3. 小塩 靖崇, 小黒 早紀, 塩澤 拓亮, 岩永 麻衣, 川口 敬之. 日本スポーツ界におけるメンタルヘルスケアのあり方を考える アスリートのメンタルヘルス実態調査から スポーツ精神医学. 2023.08; 20; 34-40
  4. 藤田 冬子, 村松 真澄, 辻村 真由子, 黒河内 仙奈, 伊藤 裕佳, 福井 小紀子, 酒井 郁子. 特別養護老人ホーム入居者のエンドオブライフにおけるケアニーズの構造化 老年看護学. 2023.07; 28(1); 62-71
  5. 岩原 由香, 福井 小紀子, 藤川 あや, 石川 孝子, 藤田 敦子. 高齢者の幸せの構成要素: 幸福度 満足度を高める設問に対する自由記述の計量テキスト分析より 日本看護科学会誌. 2023.06; 43; 38-45
  6. 池上 直己, 高木 安雄, 石橋 智昭, 星芝 由美子, 廣岡 佳代, 津田 修治, 公益財団法人医療科学研究所. 2021 年度自主研究事業「美しき有終」プロジェクト 最終報告書 認知症末期の本人の意向を尊重した意思決定支援モデルの探索的研究 医療と社会. 2023.05; 33(1); 97-135
  7. 三堀 いずみ, 林 りり子, 菅野 雄介, 玉井 奈緒, 渡邊 真理, 赤瀬 智子. 治療中止と同時に療養の場を選択する進行がん患者とその家族へのがん看護専門看護師による相談支援の実際 (in press) 日本がん看護学会誌. 2023.05;
  8. 五十嵐 百花, 山口 創生, 佐藤 さやか, 塩澤 拓亮, 松長 麻美, 小塩 靖崇, 藤井 千代. IPS 型就労支援を利用した精神障害をもつ人における就職・就労週数の予測要因 精神神経学雑誌. 2023.03; 125(3); 183-193

#### [書籍等出版物]

1. 福井小紀子, 永田智子 小野若菜子編者. 地域 在宅看護論 第 5 章「訪問看護の役割と機能」一般社団法人放送大学教育振興会. 一般社団法人放送大学教育振興会, 2023.03 (ISBN : 978-4-595-32400-0)
2. 福井小紀子, 永田智子 小野若菜子編者. 地域 在宅看護論 第 12 章「在宅看護における終末期ケア」一般社団法人放送大学教育振興会. 一般社団法人放送大学教育振興会, 2023.03
3. 福井小紀子. 系統看護学講座 専門 地域 在宅看護の基盤 地域 在宅看護論 1 第 6 章「地域 在宅看護にかかわる制度とその活用」. 医学書院, 2023.02
4. 福井小紀子, 上田耕一郎 他. 高齢者歯科学 VI 編 3 章「訪問看護と歯科の役割」. 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会, 2023.01 (ISBN : 978-4-263-42633-3)

#### [総説]

1. Kobayashi M, Kajiwara K, Morikawa M, Kanno Y, Nakano K, Matsuda Y, Shimizu Y, Shimazu T, Kako J.. Nursing Support for Nausea and Vomiting in Patients With Cancer: A Scoping Review *Cureus*. 2023.11; 15(11);
2. Kajiwara K, Kobayashi M, Morikawa M, Kanno Y, Nakano K, Matsuda Y, Shimizu Y, Shimazu T, Kako J.. Nursing Support for Caregiver Burden in Family Caregivers of Patients With Cancer: A Scoping Review. *The American journal of hospice & palliative care*. 2023.11;
3. Morikawa M, Kajiwara K, Kobayashi M, Kanno Y, Nakano K, Matsuda Y, Shimizu Y, Shimazu T, Kako J.. Nursing

- Support for Pain in Patients With Cancer: A Scoping Review *Cureus*. 2023.11;
4. Jun Kako, Miharuru Morikawa, Masamitsu Kobayashi, Yusuke Kanno, Kohei Kajiwara, Kimiko Nakano, Yoshinobu Matsuda, Yoichi Shimizu, Megumi Hori, Mariko Niino, Miho Suzuki, Taichi Shimazu. Nursing support for breathlessness in patients with cancer: a scoping review *BMJ Open*. 2023.09;
  5. Yoshinobu Matsuda, Hitoshi Tanimukai, Shinichiro Inoue, Takatoshi Hirayama, Yusuke Kanno, Yuichi Kitaura, Shuji Inada, Koji Sugano, Masafumi Yoshimura, Saki Harashima, Saho Wada, Takaaki Hasegawa, Yoshiaki Okamoto, Chikako Dotani, Mari Takeuchi, Jun Kako, Ryoichi Sadahiro, Yasuhiro Kishi, Megumi Uchida, Asao Ogawa, Masatoshi Inagaki, Toru Okuyama. A revision of JPOS/JASCC clinical guidelines for delirium in adult cancer patients: a summary of recommendation statements *Japanese Journal of Clinical Oncology*. 2023.05; 53(9); 808-822
  1. 山口 創生, 川口 敬之, 塩澤 拓亮. 統合失調症の心理社会的支援—Psychosocial Interventions for People with Schizophrenia—特集 わが国の若手による統合失調症研究最前線 *精神医学*. 2023.04; 65(4); 479-487
  2. 福井小紀子. 在宅 施設における要介護高齢者のケアの可視化：DX 活用の重要性と産学連携研究の取り組み紹介 *老年医学*. 2023.03; 61(3); 199-206
  3. 北得美佐子, 廣岡佳代, 松本和史. インストラクショナルデザインを用いた学部間協働による代替実習での合同カンファレンスの取り組み *看護教育*. 2023.02; 64(1);
  4. 廣岡佳代. 質の高い看取りを目指して—認知症をもつがん患者に焦点をあてて— *ダイヤニュース*. 2023.02; (109); 4-7
  5. 廣岡佳代. 仕事人の楽屋裏 緩和ケア. 2023.01; 33(1); 72-73

[口演・口頭発表]

1. Takahashi N, Hirooka K, Fukui S. The relationship between quality of life and surgical type and perceived social support: cross-sectional single center study. *EAFONS*, 2023.03;
2. Ishii K, Takemura Y, Kitamura A. Antecedent factors of organizational learning activities contributing to continuous implementation of evidence-based practice in hospital wards: A qualitative study using the 7-S framework . 16th Annual Conference on the Science of Dissemination and Implementation in Health 2023.12.11
3. 菅野雄介, 佐川美枝子, 伊藤沙紀子, 柳谷利恵, 坂野朋未, 岸達也, 高田侑李, 廣岡佳代, 福井小紀子. 医療介護レセプトデータを用いた初回要介護認定を受けた高齢者のサービス利用の実態把握. 第43 回日本看護科学学会学術集会 2023.12.10
4. Kasumi Ikuta, Takako Ishikawa, Miya Aishima, Sayuri Nonaka, Kurumi Asaumi, Maiko Noguchi-Watanabe, Sakiko Fukui.. The one-year longitudinal trajectory of ADL and cognitive function among nursing home residents . *EUGMS 2023* 2023.09.21
5. Ikuta K, Ishikawa T, Aishima M, Nonaka S, Asaumi K, Noguchi-Watanabe M, Fukui S.. The one-year longitudinal trajectory of ADL and cognitive function among nursing home residents. . *EUGMS 2023*.09.20 Helsinki, Finland.
6. Momoka Igarashi, Takayuki Kawaguchi, Takuma Shiozawa, Yasutaka Ojio, Sosei Yamaguchi. Conversation topics in psychiatric consultations with and without a shared decision-making tool . *ACMHN 47th International Mental Health Nursing Conference* 2023.09.14
7. Ikuta K. Investigating welfare facility employees' awareness of advanced care planning for older adults and people with disabilities at home . *IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023* 2023.06.14
8. Sakiko Fukui. Care DX . *IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023* 2023.06.12 YOKOHAMA
9. Noguchi-Watanabe M, Ishikawa T, Nonaka S, Ikuta K, Aishima M, Asaumi K, Fukui S.. Predictors of 6-month declines in activities of daily living among nursing home residents using Long-term care Information system For Evidence items.. *IAGG 2023* 2023.06.12 Yokohama
10. Takai Y, Fukahori H, Noguchi-Watanabe M, Okumura-Hiroshige A, Suzuki M, Yamamoto-Mitani N.. Case studies on the end-of-life care at home for older people in Japan. *IAGG 2023* 2023.06.12 Yokohama
11. Mizuki Katsuhisa, Chie Hamaie, Yuko Takeshita, Kasumi Ikuta, Yuichiro Saizen, Mai Onishi, Misaki Kasamatsu,

- Yuki Moriki, Eriko Koujiya, Miyae Yamakawa, Yasushi Takeya.. The characteristics of older inpatients with adverse drug events due to continuous drugs prescribed before admission.. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 2023.06.12
12. Tomoko Wakui, Kentaro Watanabe, Hiroyasu Miwa, Sakiko Itoh, Tomoko Ikeuchi. What do people expect from technology in their late life? . IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 (IAGG: the International Association of Gerontology and Geriatrics) 2023.06
  13. Hiroyasu Miwa, Kentaro Watanabe, Sakiko Itoh, Tomoko Ikeuchi, Tomoko Wakui. Acceptability of technology use in long-term care services in Japan. 2023.06
  14. Björn Slaug, Rumiko Tsuchiya-Ito, Tomonori Sano, Miki Tajima, Sakiko Itoh, Kazuaki Uda, Takashi Yamanaka, Susanne Iwarsson. Assessing housing accessibility issues for older adults in Japan: Cross-cultural adaptation and aspects of validity of the Japanese Housing Enabler . IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023 (IAGG: the International Association of Gerontology and Geriatrics) 2023.06
  15. Fukui S. 第26 回東アジア看護学研究者フォーラム (EAFONS2023) 一般公演 7 . 2023.03.11
  16. Ikuta K, Ishikawa T, Fukui S. Progress to end-of-life care of nursing home residents by food intake at admission. 2023.03.10
  17. Nonaka S, Noguchi-Watanabe M, Ishikawa T, Aishima M, Ikuta. Prescribed medications and dementia behavioral symptoms of people with dementia in Japanese nursing homes. 2023.03.10
  18. Kasumi Ikuta, Takako Ishikawa, Sakiko Fukui. Progress to end-of-life care of nursing home residents by food intake at admission. EAFONS 2023 2023.03.10
  19. Noriko Takahashi, Kayo Hirooka, Sakiko Fukui. The relationship between quality of life and surgical type and perceived social support: cross-sectional single center study. EAFONS2023 2023.03.10
  20. Nonaka S, Noguchi-Watanabe M, Ishikawa T, Aishima M, Ikuta K, Asaumi K, Fukui S. . Dementia behavioral symptoms and prescribed medications of people with dementia in Japanese nursing homes.. EAFONS 2023.03 Tokyo, Japan
1. 廣岡佳代, 菅野雄介, 伊藤沙紀子, 柳谷利恵, 佐川美枝子, 坂野朋未, 岸達也, 高田侑李, 福井小紀子. 新型コロナウイルス感染症の流行前後における入退院支援加算の変化と関連: NDB オープンデータ解析. 日本看護科学学会学術集会 (JANS43) 2023.12.10 下関
  2. 菅野雄介, 佐川美枝子, 新田汐里, 伊藤沙紀子, 坂野朋未, 柳谷利恵, 高田侑李, 岸達也, 廣岡佳代, 福井小紀子. 医療介護レセプトデータを用いた初回要介護認定を受けた高齢者の サービス利用の実態把握. 日本看護科学学会学術集会 (JANS43) 2023.12.10 下関
  3. 野口麻衣子, 石川孝子, 相島美彌, 野中さゆり, 生田花澄, 浅海くるみ, 福井小紀子. LIFE を用いた高齢者施設入居者の身体機能の検討 (第1 報): 身体機能低下の予測因子の層別分析. 日本看護科学学会学術集会 (JANS43) 2023.12.10 下関
  4. 生田花澄, 石川孝子, 相島美彌, 野中さゆり, 浅海くるみ, 野口麻衣子, 福井小紀子. LIFE を用いた高齢者施設入居者の身体機能の検討 (第2 報): 入居後の身体機能の trajectory. 日本看護科学学会学術集会 (JANS43) 2023.12.10 下関
  5. 角川由香, 福井千絵, 野口麻衣子, 姉崎沙緒里, 高岡茉奈美, 五嵐歩, 目麻里子, 山本則子. . 訪問看護事業所のケアの質保証を目指した PDCA オンラインプログラム (VENUS QIC) の効果.. 第43 回日本看護科学学会2023.12.10 山口
  6. 野口麻衣子, 石川孝子, 相島美彌, 野中さゆり, 生田花澄, 浅海くるみ, 福井小紀子. LIFE を用いた高齢者施設入居者の身体機能低下の検討 (第1 報): 身体機能低下の予測因子の層別分析. 第43回日本看護科学学会 2023.12.10 山口

7. 濱谷雅子, 平原優美, 小沼絵理, 沼田華子, 野口麻衣子, 菱田一恵, 岡本有子, 竹森志穂, 新幡智子, 栗田佳代子, 山本則子. 訪問看護師向け在宅看取り教育プログラム(初任者)の無作為化比較試験による評価. 第43回日本看護科学学会 2023.12.10 山口
8. 生田花澄, 石川孝子, 相島美彌, 野中さゆり, 浅海くるみ, 野口麻衣子, 福井小紀子. LIFEを用いた高齢者施設入居者の身体機能の検討(第2報):入居後の身体機能のtrajectory. 2023年日本看護科学学会学術集会 2023.12.10
9. 竹下悠子, 勝久美月, 生田花澄, 齋前裕一郎, 笠松弥咲, 藤井美咲, 森木友紀, 糀屋絵理子, 竹屋泰. 高齢患者に対する入院中の看護師の転倒リスクアセスメントと退院後の転倒の関連性. 第43回日本看護科学学会 2023.12.10
10. 森木友紀, 生田花澄, 勝久美月, 竹下悠子, 齋前裕一郎, 大西真愛, 笠松弥咲, 糀屋絵理子, 藤井誠, 竹屋泰. 高齢者を支える看護師のアドバンスケアプランニング実態調査:生活介護事業所でのパイロットスタディ. 第43回日本看護科学学会学術集会 2023.12.10
11. 齋前裕一郎, 藤井美咲, 大西真愛, 勝久美月, 竹下悠子, 生田花澄, 森木友紀, 勝眞久美子, 関口亮子, 深田悠花, 石川武雅, 肥後友彰, 糀屋絵理子, 竹屋泰. 在宅医療における医療用麻薬の使用の実態と課題. 第43回日本看護科学学術集会 2023.12.10
12. 玉井奈緒(座長), 林田賢史(座長), 福井小紀子, 村山陵子, 升川研人. パネルディスカッション人工知能を活用した新しい看護実践・看護研究. 日本看護科学学会学術集会(JANS43) 2023.12.09 下関
13. 塩澤拓亮. 地域で生活する精神疾患当事者が抱く自身の目標や期待する将来像—オンラインアンケート調査の内容分析—. 第43回日本看護科学学会 2023.12.09
14. 菅野雄介. 研究者×実践者はワンチーム! ~認知症&せん妄をアップデート! ~. 日本終末期ケア協会2023.12
15. 菅野雄介, 佐川美枝子, 伊藤沙紀子, 柳谷利恵, 坂野朋未, 岸達也, 高田侑李, 廣岡佳代, 福井小紀子. 医療介護レセプトデータを用いた初回要介護認定を受けた高齢者のサービス利用の実態把握. 2023.12
16. 柳谷利恵, 廣岡佳代, 佐川美枝子, 菅野雄介, 福井小紀子. 退院調整/退院支援が実施されたがん関連治療を受けた高齢がん患者の特徴の分析~A 県国保データベースを用いて~. 第13回日本在宅看護学会学術集会 2023.11.18
17. 渡邊美也子, 河本美妃, 廣岡佳代. 病状理解を促し、意思決定に沿った支援のタイミングを図り意向に添えた一事例. 第13回日本在宅看護学会学術集会 2023.11.18
18. 石井馨子, 武村雪絵, 北村言. 部署の組織学習活動と看護職のEvidence-based practiceの内在化の関連:横断研究のマルチレベル分析. 第27回日本看護管理学会学術集会 2023.08.26
19. 市川奈央子, 石井馨子, 武村雪絵. 40歳以上の看護職におけるプロフェッショナリズムを高める経験の探索:横断研究. 第27回日本看護管理学会学術集会 2023.08.25
20. 川口敬之, 山田悠平, 相良真央, 山口創生, 小池純子, 塩澤拓亮, 岩永麻衣, 五十嵐百花, 白井香, 安間尚徳, 山田裕貴, 佐藤さやか, 藤井千代. 災害関連調査を通じた当事者主導型研究のプロトコル作成および記録DIARYプロジェクトの実践に基づく検討. 国立精神神経医療研究センター精神保健研究所年報2023.07.01

21. 伊藤沙紀子. 老年看護への応用：中高年層を対象としたケアテクノロジーの受容について．第33回日本老年学会総会 合同シンポジウム11「AI/ICT/ロボットの高齢者ケアへの活用と展望」 2023.06.18
22. 竹下悠子, 笠松弥咲, 勝久美月, 齊前裕一郎, 生田花澄, 森木友紀, 大西絵梨, 鈴木宏崇, 吉本綾香, 荒牧靖代, 中嶋恒男, 糀屋絵理子, 山川みやえ, 竹屋泰. 高齢患者の服薬アドヒアランス評価に影響を与える要因—量的質的両面から—．第7回日本老年薬学会学術大会 2023.05.20
23. 笠松弥咲, 齊前裕一郎, 藤井美咲, 大西真愛, 勝久美月, 竹下悠子, 生田花澄, 森木友紀, 勝眞久美子, 関口亮子, 深田悠花, 石川武雅, 小玉伽那, 肥後友彰, 大塚泰葉, 糀屋絵理子, 竹屋泰. 在宅医療における医療用麻薬の管理実態と安全性への課題．第7回日本老年薬学会学術大会 2023.05.20
24. 勝久美月, 濱家千絵, 竹下悠子, 齊前裕一郎, 大西真愛, 笠松弥咲, 生田花澄, 森木友紀, 糀屋絵理子, 山川みやえ, 竹屋泰. 高齢入院患者の薬物有害事象と内服薬の特徴．第7回日本老年薬学会学術大会 2023.05.20
25. 齊前裕一郎, 勝久美月, 竹下悠子, 笠松弥咲, 大西真愛, 生田花澄, 森木友紀, 糀屋絵理子, 山川みやえ, 竹屋泰. 高齢心不全患者に対する看護師を中心とした多職種介入の有効性. 日本循環器病予防学会誌 2023.05.01
26. 伊藤沙紀子. AI/ICT/ロボットの高齢者ケアへの活用と展望 老年看護への応用 中高年層を対象としたケアテクノロジーの受容について. 日本老年医学会雑誌 2023.05.01
27. 福井小紀子. 柱1-7-7 機器とケア記録による高齢者の複合的变化をAI解析した看取り支援IoTの開発（柱1-7 ビッグデータとAIを活用したQOLの向上と健康寿命の延伸）. 第31回日本医学会総会 2023.04.23 東京
28. 福井小紀子. 柱4-4 医療人の教育の現状と今後の在り方. 第31回日本医学会総会 2023.04.22 東京
29. 五十嵐百花, 山口創生, 佐藤さやか, 塩澤拓亮, 松長麻美, 小塩靖崇, 藤井千代. IPS型就労支援利用者における就労条件の希望マッチ度と就労期間の関連. 第17回日本統合失調症学会 2023.03.26
30. 塩澤拓亮. 研究で扱うべき項目は何か—多様な立場からの調査—. 第17回日本統合失調症学会 シンポジウム6「主体性の再考」 2023.03.25
31. 福井小紀子. 南江堂 Web セミナー. ACPのポイントとコッケー看護師として自信をもって患者に接するために— 2023.03.15
32. 塩澤拓亮. 児童思春期におけるメンタルヘルスの課題と対応. 令和4年度第2回精神保健福祉事例検討会. 2023.02.22
33. 川口敬之, 塩澤拓亮, 鈴木みずめ. 当事者や家族が研究や学会に参加すると何が良いの？. 第17回日本統合失調症学会 大会前事前企画 2023.02.04

#### [受賞]

1. 福井小紀子. 日本私立看護系大学協会 看護学研究奨励賞, 2023年
2. 菅野雄介. 査読功労賞, 日本緩和医療学会, 2023年05月
3. 菅野雄介. 優秀演題賞（共著）, 日本緩和医療学会, 2023年06月
4. 野口麻衣子. Outstanding Poster Presentation Award, 第12回IAGGアジアオセアニア国際老年学会議 (IAGG-AOR2023), 2023年06月

- 野口麻衣子. 第13回日本在宅看護学会学術集会会長賞, 日本在宅看護学会, 2023年11月
- 塩澤拓亮. 若手優秀演題口頭発表賞, 日本看護科学学会, 2023年12月
- 野口麻衣子. 最優秀賞演題口頭発表賞, 第43回日本看護科学学会, 2023年12月

#### 【社会貢献活動】

- 非常勤講師 (福井小紀子), 2016年04月01日 - 2023年03月31日
- 東京大学 非常勤講師 (福井小紀子), 2016年04月01日 - 現在
- Journal of Advanced Nursing, reviewer (Kayo HIROOKA), 2018年03月18日 - 現在
- Palliative Medicine, reviewer (Kayo HIROOKA), 2018年08月01日 - 現在
- 東邦大学 研究方法特講 非常勤講師 (野口麻衣子), 東邦大学, 2019年 - 現在
- Psycho-Oncology, reviewer (Kayo HIROOKA), 2019年03月18日 - 現在
- 慶應義塾大学大学院 非常勤講師 (廣岡佳代), 慶應義塾大学大学院, 2019年04月01日 - 現在
- 公益社団法人日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 (野口麻衣子), 日本看護科学学会, 2019年10月 - 現在
- 公益社団法人日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 (石川孝子), 2019年10月01日 - 現在
- 日本在宅看護学会 編集委員会 編集委員 (野口麻衣子), 日本在宅看護学会, 2020年03月 - 現在
- 大阪大学 招へい教授 (福井小紀子), 2020年04月01日 - 2023年03月31日
- 浜松医科大学 非常勤講師 (福井小紀子), 2020年04月01日 - 現在
- 江戸川保健所業務継続のための応援派遣 (野口麻衣子), 2021年02月01日 - 現在
- 地域包括ケア時代の地域連携と看護職の役割 (福井小紀子), 公益財団法人静岡県看護協会, 静岡県看護協会 看護職員管理者の相互研修, 2021年04月01日 - 現在
- ヘルスケアシステム論Ⅰヘルスケアサービスにおける看護の役割 (福井小紀子), 大阪府看護協会, 大阪府看護協会認定看護管理者教育課程, 2021年04月01日 - 現在
- ヘルスケアシステム論Ⅱ社会保障制度の現状と課題 (福井小紀子), 静岡県看護協会, 静岡県看護協会 看護管理者教育課程, 2021年04月01日 - 現在
- Japan Journal of Nursing Science, reviewer (Kayo HIROOKA), 2021年11月02日 - 現在
- お茶の水看護学研究会 編集委員会 編集委員長 (野口麻衣子), お茶の水看護学研究会, お茶の水看護学雑誌, 2022年04月 - 現在
- 赤十字看護管理者研修Ⅱ (福井小紀子), 日本赤十字社幹部看護師研修センター, ヘルスケアシステム論Ⅱ 保健医療福祉サービスの現状と課題, 2022年04月 - 現在
- 「看多機におけるケアの提供体制強化に関する検討委員会」(福井小紀子), 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 公益財団法人日本看護協会, 2022年04月01日 - 2023年03月31日
- 安全管理講義 (福井小紀子), 公益社団法人愛知県看護協会, 訪問看護認定看護師教育課程, 2022年04月01日 - 現在
- 「介護保険施設のリスクマネジメントに関する調査研究事業」検討組織委員会 (福井小紀子), 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 株式会社日本総合研究所, 2022年06月01日 - 2023年03月31日
- 「介護施設等におけるカメラタイプの見守り機器の効果的な活用に向けた実態調査研究事業」(福井小紀子), 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 株式会社日本総合研究所, 2022年09月01日 - 2023年03月31日

24. Geriatrics & Gerontology International, reviewer (Kayo HIROOKA), 2022年11月20日- 現在
25. EAFONS2023, reviewer (Kayo HIROOKA), 2022年12月01日- 2023年03月30日
26. 居宅介護支援および介護予防支援における令和3年度介護報酬改定の影響に関する調査研究事業(福井小紀子), 厚生労働省 株式会社三菱総合研究所, 2022年12月01日- 2023年03月31日
27. 地域緩和ケア連携調整員研修(ベーシックコース) がん医療 緩和ケアの政策動向と院外連携 ファシリテーター(福井小紀子), 国立がん研究センター がん対策研究所, オンライン, 2022年12月17日- 2023年01月22日
28. 東京都介護支援専門員研究協議会 第14回研究大会 活動報告会, 特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会, 2023年01月21日
29. 横浜在宅看護協議会 令和4年度訪問看護研究発表会, 横浜在宅看護協議会, 2023年02月18日
30. 令和5年度介護報酬改定検証調査「個室ユニット型施設の整備 運営状況に関する調査研究事業」(福井小紀子), 2023年05月01日- 2024年03月31日
31. 「介護保険施設等における事故報告に関する調査研究事業」(福井小紀子), 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 株式会社日本総合研究所, 2023年07月01日- 2024年03月31日
32. 「看護小規模多機能型居宅介護の特性を踏まえた普及を図る方策に関する事業」(福井小紀子), 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社, 2023年07月01日- 2024年03月31日
33. 介護現場での自立支援促進に係る調査研究事業における検討委員会(福井小紀子), 厚生労働省 老人保健健康増進等事業PWCコンサルティング合同会社, 2023年07月01日- 2024年03月31日
34. 第16回島根看護学術集会講演, 島根県看護協会, 2023年07月08日
35. 「居宅介護支援及び介護予防支援におけるモニタリングのあり方に関する調査研究事業」ケアマネジャー未来プロジェクト会議(福井小紀子), 厚生労働省 株式会社三菱総合研究所, 2023年08月- 2024年03月31日
36. 医療福祉連携講習会(福井小紀子), 特定非営利活動法人日本医療マネジメント学会, 2023年08月20日
37. がんにおける心的外傷後成長の昨今の研究について(廣岡佳代), NHK, ヒューマニエンス, 2023年08月25日
38. エンドオブライフケアのご研究について(福井小紀子), NHK, ヒューマニエンス, 2023年08月29日
39. 三重看護研究会 事例研究に関する研修会, 三重看護研究会, 2023年09月08日
40. 地域緩和ケア連携調整員研修(福井小紀子), 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所, 2023年10月14日- 2025年03月
41. 新潟県立新潟南高等学校 大学講義体験(廣岡佳代), 新潟県立新潟南高等学校, 2023年11月02日
42. Journal of Loss and Trauma, reviewer (Kayo HIROOKA), Journal of Loss and Trauma, reviewer, 2023年12月01日- 2024年01月01日
43. 令和5年度医療関連産業支援セミナー 『看取り支援 IoT の開発と今後の展望』(福井小紀子), 文京区 区民経済課産業振興係, 令和5年度医療関連産業支援セミナー, オンラインセミナー, 2023年12月07日

## 国際看護開発学

### International Nursing Development

教授	近藤 暁子
非常勤講師	Ann L. Eckhardt
非常勤講師	Mabel C. Ezeonwu
非常勤講師	Justina Liu Yat Wa
非常勤講師	Iqbal Pramukti
非常勤講師	新津 晃右
非常勤講師	駒形 朋子
非常勤講師	野口 眞貴子
大学院生	Abuliezi Renaguli
大学院生	Hua Jing
大学院生	Quian Huilin
大学院生	Wang Congcong
大学院生	Wen Jieru
大学院生	平井 寛季
大学院生	Piao Meihui
大学院生	Ganchuluun Sambuu
研究生	Ying Zhexi
研究生	Zeng Wanying
研究生	Zhou Yao
研究生	Adimah Sandra Enyonam

#### (1) 分野概要

国際看護開発学分野は、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成する目的で開設された分野である。主に、大学院教育の中で、国際的視点の育成と看護国際人に必要なアカデミックマナーの習得及び国際的研究を支援している。留学生も多く受け入れ、大学院講義・ゼミはすべて英語で実施し、英語運用能力の維持・向上に努めている。

#### (2) 研究活動

主に成人～高齢者の健康問題を中心に、国際的視点から新たな看護方法の開発を目指している。諸外国との国際比較を通して、わが国の実情と文化・社会ニーズに即したシステムを探求している。研究テーマの1つは、急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムとの関連についての日米比較であり、イリノイウェスレヤン大学および昭和大学の教員と共同研究を行った。その結果日本人の方が有意にコントロール感が低かったが、日本人もコントロール感と健康関連 QOL の相関が認められた。また、大学生・大学院生を対象とし、聖路加国際大学、昭和大学、東京医科大学、米国ワシントン大学と共同し「新型コロナウイルス流行下での健康行動とコントロール感の関係の日米比較」を実施した。さらにインドネシアの大学とも共同研究を実施した。その他看護学生を対象とした異文化や英語教育についての研究も実施している。さらに今後は看護の教員を対象とした異文化教育に関する研究を実施する予定である。

### (3) 教育活動

#### 1) 学部教育

本分野では学部4年生を対象として、「国際保健看護学」および「総合実習Ⅰ」を担当している。国際保健看護学では、諸外国の医療と看護の現状を理解し、SDGsをもとに人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養う。遠隔講義システムを利用し香港理工大学 Justina Liu Yat Wa 准教授および米国テキサス大学 Ann Eckhardt 准教授の講義を英語で実施している。「総合実習Ⅰ」では4年間の学びを統合し、複数受け持ちや外国人医療、医療チームでの協力、について学ぶ。学部3年生に対しては「卒業論文Ⅰ」を担当し、研究手法の基本や論文のクリティークを行っている。1年生に対しては「国際保健看護学Ⅰ」を実施し、この科目の講義の半分は英語で行っている。

さらに学部24年生を対象とした「実践看護英語」を自由選択科目として開講している。一部は米国ワシントン大学やインドネシアのパジャジャラン大学の学生とオンラインを使用して共通講義とし、ネイティブスピーカーの講師や留学生とともに異文化看護について英語で学んでいる。英語によるコミュニケーションを通じて、異文化およびグローバル社会への興味関心を喚起すると共に、看護職としての自己学習課題の発見、生涯学習の動機付けにつながるよう指導を行っている。2022年度はインドネシアの大学と共同講義を行う予定である。

また「卒業論文Ⅱ」では留学生を対象とした日本での病院受診時の体験調査、病院の看護師を対象とした外国人患者対応に必要な研修内容、看護学生の英語学習のニーズについての調査を実施した。それらの多くは国際誌において英語論文を発表している。

#### 2) 大学院教育

共通科目では「国際看護研究方法論」を担当している。研究計画書の作成方法や論文のクリティークなどを英語による講義と学生のプレゼンによるディスカッション形式で行っている。学生は研究方法を学ぶことのみならず、国際学会でいつでも発表できるように準備している。「国際看護開発学特論」ではシステムティックレビューの方法を学んでいる。国際看護開発学特論で学んだ学生はシステムティックレビュー論文を2021年に International Nursing Review に発表した。

### (4) 教育方針

人間開発学 Human Development Studies の視点に立ち、グローバル化する社会の中で日本人看護職として国内外で役割を發揮できる人材の育成を目標としている。また、アカデミックな場における英語によるプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力の強化に取り組んでいる。研究領域としては、グローバルな視点から、成人から老年期の健康問題の看護およびヘルスケアシステムの改善についての研究を中心として行っている。

### (5) 臨床活動および学外活動

ネパールでは、2015年の大地震の発生、2020年に始まったコロナウイルス感染症拡大により、現地の山間部の小学校の多くの児童が教育を中断している状況が深刻化しています。

このプロジェクトではネパールの農村地域に住む子どもたちに教育、健康、権利について働きかけ、彼らに学ぶことの楽しさを伝えることを目指し、クラウドファンディングに挑戦しています！

募金よろしくお祈いします。

クラウドファンディングプロジェクト

【ネパール農村部の子どもたちに学びの楽しさを知ってもらいたい！】

URL：<https://readyfor.jp/projects/RKHProject>

プロジェクト代表者：大学院保健衛生学研究科国際看護開発学分野 教授

近藤 暁子

募集期間：2023年4月10日(月)10:00～2023年5月31日(水)23:00 (51日間)

2023年9月2日に第25回 日本看護医療学会学術集会～新しい時代におけるダイバーシティと多職種連携～を実施予定です。

<https://chiakahs.wixsite.com/my-site>

(6) 研究業績

[原著]

1. Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Erika Ota, Tomomi Oki, Kazuko Naruse. Cross-sectional study of factors related to COVID-19 vaccination uptake among university healthcare students *Frontiers in Public Health*. 2023.12; 11; 1-11
2. Akiko Kondo & Mai Noguchi. Change of motivation and need to study English among nursing students:A prospective two-year comparison *Journal of Japanese Society for International Nursing*. 2023.12;
3. Jing Hua, Akiko Kondo, Congcong Wang, and Sambuu Ganchuluun. Job Satisfaction, Intention to Leave, and Related Factors among Foreign-Educated Nurses in Japan: A Cross-Sectional Study *Journal of Nursing Management*. 2023.10; 2023;
4. Jing Hua, Akiko Kondo, Janelle Moross. Enhancing intercultural sensitivity in Japanese nursing students through international online nursing courses: A quasi-experimental study *Nurse Education Today*. 2023.09; 128(105870); 1-8
5. Akiko Kondo, Renaguli Abuliezi, Kosuke Niitsu, Kazuko Naruse, Tomomi Oki, Erika Ota, Mabel Ezeonwu. Factors related to mental health effect among nursing students in Japan and the United States during the coronavirus pandemic: A cross - sectional study *International Journal of Mental Health Nursing*. 2023.01; 32(1); 186-198
6. Sambuu Ganchuluun, Akiko Kondo, Megumi Ukuda, Hiroki Hirai and Jieru Wen. Factors Related to Nurses' Professional Autonomy When Caring for Patients with COVID-19 in a University Hospital: A Cross-Sectional Study *Journal of Nursing Management*. 2023.10;

[講演・口頭発表等]

1. Jing Hua, Akiko Kondo, Congcong Wang, Sambuu Ganchulun. Job Satisfaction, Intention to Leave, and Related Factors among Foreign-educated Nurses in Japan: A Cross-sectional Study. The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2023.12.09
2. Sambuu Ganchuluun, Akiko Kondo, Wen Jieru, Hiroki Hirai . Determining the reliability and validity of a shortened version of the nurses' professional autonomy scale. The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2023.12.09
3. Akiko Kondo, Erika Ota, Tomomi Oki, Kazuko Naruse. Factors related to vaccination uptake for COVID-19 of healthcare university students: a cross-sectional study. The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2023.12.09
4. Zhexi Ying, Akiko Kondo, Meihui Piao. Depression and Anxiety among Chinese International Students During the COVID-19 pandemic: A Meta-analysis. The 5th Asian Congress in Nursing Education (ACiNE2023) 2023.11.24 Istanbul, Turkey/ Online
5. Zhexi Ying, Akiko Kondo, Meihui Piao. Factors associated with Chinese international students' mental health during the COVID — 19 pandemic: A systematic review . The 7th Annual Conference of Japanese Society for International Nursing 2023.11.19 Saitama, Japan
6. Jing Hua, Akiko Kondo, Janelle Moross.. Changes in Japanese nursing students' intercultural sensitivity by international nursing courses: a time-series analysis.. The 7th Annual Conference of Japanese Society for International Nursing 2023.11.18
7. Meihui Piao, Akiko Kondo, Huilin Qian. Factors related to Disaster Preparedness of Immigrants: A scoping review. 第 25 回日本看護医療学会学術集会 2023.09.02 Tokyo/Online
8. Sambuu Ganchuluun, Akiko Kondo, Hiroki Hirai. Characteristics of nurses who worked with COVID-19 patients: A Cross-sectional Study . 第 2 5 回日本看護医療学会学術集会 2023.09.02 オンライン
9. Hiroki Hirai, Akiko Kondo, Janelle Moross, Piao Meihui. Effect of lecture about LGBTQ+ for Japanese nursing students: a randomized control trial. 25th JAPAN SOCIETY OF NURSING AND HEALTH CARE 2023.09.02 Online

10. Meihui Piao, Akiko Kondo, Huilin Qian. Factors related to Disaster Preparedness of Immigrants: A scoping review. 第25回日本看護医療学会学術集会 2023.09.02 Tokyo/Online
11. Akiko Kondo, Tomomi Oki. Associations among resilience factors and end-of-life care attitude of critical care nurses in Japan: a cross-sectional study. International Council of Nurses (ICN) 2023 Congress 2023.07.02 Montreal, Canada
12. Jing Hua, Akiko Kondo, Congcong Wang, Sambuu Ganchuluun. Job satisfaction and its related factors among Foreign-educated nurses in Japan. International Council of Nurses (ICN) 2023 Congress 2023.07.01 Montreal, Canada
13. Sambuu Ganchuluun, Akiko Kondo, Wen Jieru, Hiroki Hirai, Megumi Ukuda. The characteristics and professional autonomy of nurses who are working with COVID-19 by clinical ladder at a university hospital in Japan: a cross-sectional study. International Council of Nurses (ICN) 2023 Congress 2023.07.01 Montreal, Canada
14. Jing Hua, Akiko Kondo, Janelle Moross. Changes in Japanese nursing students' intercultural sensitivity during international online course: a time-series analysis. 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2023) 2023.03.10 Tokyo, Japan
15. Sambuu Ganchuluun, Akiko Kondo, Wen Jieru, Hiroki Hirai, Megumi Ukuda. Factors related to nurses' professional autonomy when caring for patients with COVID-19 in a University Hospital: a cross-sectional study. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS2023) 2023.03.10 Tokyo, Japan 2023.03.10
16. Hiroki Hirai, Akiko Kondo, Janelle Moross, Piao Meihui. Effects of LGBTQ+ lecture for Japanese nursing students' knowledge and attitude: a randomized control trial. 26th East Asia Forum of Nursing Scholars Secretariat 2023 2023.03.10 The University of Tokyo Tokyo, JAPAN
17. Renaguli Abuliezi, Akiko Kondo, Kosuke Niitsu, Erika Ota. Perceived Control and Preventive Behavior of Healthcare Graduate Students during COVID-19 in Japan and the United States: A Cross-sectional Study. 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2023) 2023.03.10 Tokyo, Japan
1. 近藤暁子, アブレズ・レナグリ, 大田えりか, 大木友美, 成瀬和子. 医療系大学生のコロナワクチン接種意向に関連する要因. 日本国際看護学会第7回学術集会 2023.11.19

#### [受賞]

1. 優秀口頭発表賞受賞, 第26回 東アジア看護学研究者フォーラム 2023(EAFONS2023), 2023年03月
2. TMDU 卓越大学院生, 科学技術振興機構, 2023年06月

#### [その他業績]

1. 第25回 日本看護医療学会学術集会, 2023年09月  
テーマ: 新しい時代におけるダイバーシティと多職種連携  
会長講演 「ダイバーシティと異文化教育」 近藤暁子  
基調講演 「米国におけるダイバーシティと多職種連携」 ワシントン大学講師 新津晃右先生  
教育講演Ⅰ 「外国人介護職の定着を目指した職場環境改善の支援」 摂南大学教授 富永真己先生  
教育講演Ⅱ 「多職種のためのコクランシステムティックレビューの臨床での活用方法」  
聖路加国際大学教授 大田えりか先生

#### シンポジウム

「看護・医療における多職種連携 ―コロナ流行下での各職種の困難と打開策から見えてきたもの―」

< シンポジスト >

看護師・・・東京医科歯科大学病院 ICU 看護師 栗畑宗久氏

助産師・・・昭和大学病院 佐々木佑氏

訪問看護師・・・NPO 法人コスモス訪問看護ステーション 武笠亜企子氏

コメディカル・・・昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 作業療法士 内堀謙吾氏

## 看護管理・高齢社会看護学分野

### Nursing Management and Gerontology Nursing

教授 緒方 泰子  
准教授 佐々木 美樹  
助教 湯本 淑江

非常勤講師 佐藤 可奈  
非常勤講師 高田 聖果  
非常勤講師 西川 裕理  
非常勤講師 藤波 景子  
非常勤講師 Schnock Kumiko  
非常勤講師 田中 理子  
特任講師 鄭 珠  
特任研究員 長井 聡子

大学院生 博士課程（5年一貫制）  
森 陽子（2024.3.31 修了）  
山口 さおり  
伊藤 絢乃  
佐藤 潤  
前田 優貴乃  
廣田 千穂  
陳 冠華  
小谷 愛  
野田 京花

研究生  
岩崎 弓子  
石井 典子

事務補佐員  
小曾根 裕美  
鎌田 沙耶

#### (1) 分野概要

高齢社会を迎え、家族を含む高齢者へのより高度で専門的な看護の実践方法（個へのアプローチ）に加え、高齢者への看護・ケアを社会の仕組みにどう位置づけていくか（社会システムへのアプローチ）といったことが求められています。後者には、対象者のニーズに応じていくためのケアマネジメントや看護管理、ケアシステムの開発が含まれます。高齢社会看護システム管理学では、高齢社会を生きる人々を支える看護・ケアに関して、微視的・巨視的視点を駆使し、新しい学問及び専門領域として高齢者への看護学を確立していくため、また、国内外の動向をふまえリーダーシップを発揮できるような人材養成のために、学際的・国際的な教育研究活動の推進を目指しています。

## (2) 研究活動

1. 高齢社会を支える看護・ケアシステムに関する研究
2. 看護ケアの質に関する研究
3. 看護管理学に関する研究
4. 望ましいアウトカムを達成しうる健康的な職場環境に関する研究
5. 認知症高齢者へのケアに関する研究 など

## (3) 教育活動

学部学生への教育では、高齢者の心身・社会経済的な変化や老年期に発症しやすい健康・機能障害等の観点から老年期にある対象の理解、アセスメント技術、高齢者へのリハビリテーションの概念や理論を学ぶ機会を提供しています。また、施設実習を通じて理論と実践を統合し看護援助を創造していく知識・技術の基盤づくりを行っています。さらに、学生個々の研究疑問にもとづく卒業論文作成を通じて、既存の方法にとらわれず、新たな方法論の開発につながるような、専門性の高いあるいは学際的な観点からの研究機会を提供しています。

大学院では、研究方法を理解し実践できるよう、高齢者への看護・ケアや研究方法に関する英文書籍の輪読、研究法の演習を行い、関連分野の基礎知識と最新知識を研究に反映できるよう国内外の研究論文の抄読を行っています。各学生の研究テーマに応じた教育・支援により、高齢社会看護システム管理学といった領域において、国内外の研究を牽引していただけるような研究者養成を目指しています。

## (4) 研究業績

### [原著]

1. Kida, R., Ogata, Y., & Nagai, S.. Uneven distribution of stressful working conditions among Japanese nurses: a secondary analysis of nurses with and without children *Industrial health*. 2023.12; (advance publication);
2. Kida, R; Yumoto, Y; Ogata, Y. Workplace social capital mediates the relationship between authentic leadership and three dimensions of organizational commitment of hospital nurses: A cross-sectional study *JAPAN JOURNAL OF NURSING SCIENCE*. 2023.07; 20(3); e12526
3. Ayano Ito, Miki Sasaki, Yuki Yonekura, Yasuko Ogata. Impact of organizational justice and manager's mental health on staff nurses' affective commitment: A multilevel analysis of the work environment of hospital nurses in Japan-Part II (WENS-J-II) *International Journal of Nursing Studies Advances*. 2023.06; 5; 100137
4. Kida Ryohei, Fujinami Keiko, Yumoto Yoshie, Togari Taisuke, Ogata Yasuko. The association between burnout and multiple roles at work and in the family among female Japanese nurses: a cross-sectional study *Industrial Health*. 2023.05; 61(3); 195-202
5. Moriwaki M, Hayashida K, Ogata Y. Factors associated with non-home discharge of patients hospitalized for hip fracture: A nationwide retrospective study using the Japanese diagnostic procedure combination database. *Medicine*. 2023.03; 102(9); e33138
6. Nagai, S; Ogata, Y; Yamamoto, T; Fedyk, M; Bell, JF. A Longitudinal Study of the Impact of Personal and Professional Resources on Nurses' Work Engagement: A Comparison of Early-Career and Mid-Later-Career Nurses *HEALTHCARE*. 2023.01; 11(1);
7. Mori Y, Sasaki M, Ogata Y, Togar. Development and psychometric validation of an educational support assessment scale for novice home healthcare nurses *BMC Medical Education*. 2023; 23(1); 326
1. 飯岡 由紀子, 大場 良子, 廣田 千穂, 森住 美幸, 小菅 由美, 真鍋 育子, 清崎 浩一, 馬場 知子, 関谷 大輝, 小倉 泰憲, 儀賀 理暁, 黒澤 永. 「多職種連携におけるコーディネート力尺度 (MCAS)」の開発—がん医療に携わる医療専門職を対象とした信頼性と妥当性の検討— *Palliative Care Research*. 2023.01; 18(1); 1-10

2. 松村いつみ, 森脇睦子, 大成佳純, 佐々木美樹, 林田賢史, 緒方泰子. 大腿骨近位部骨折患者における ADL 回復過程の可視化と関連する施設要因の検討—DPC データを用いた探索的分析— 日本看護管理学会誌. 2023; 27(1); 208-217
3. 大成佳純, 森脇睦子, 松村いつみ, 佐々木美樹, 林田賢史, 緒方泰子. 認知症による治療機会逸失の可能性のある疾患の探索的分析 : DPC データを用いて 日本認知症ケア学会誌. 2023; 22(2); 384-392

#### [書籍等出版物]

1. 阿部俊子 (監修), 山本則子 (編集), 五十嵐歩 (編集), 湯本淑江, 他. エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図. 中央法規出版, 2023.08 (ISBN : 4805889217)

#### [講演・口頭発表等]

1. 青山美紀子, 森田牧子, 出貝裕子, 勝野とわ子, 前田優貴乃. 若年認知症家族介護者の介護中に経験している健康問題と症状. 第 43 回日本看護科学学会学術集会 2023.12.10
2. 長井聡子, 木田亮平, 磯部環, 井上真帆, 伊藤絢乃. つながろう! 看護管理学研究の発展に向けた早期キャリアにある研究者間の交流. 第 27 回日本看護管理学会学術集会 2023.08.25 東京
3. 松井才紀, 湯本淑江, 前田優貴乃, 高田聖果, 緒方泰子. 認知症高齢者の ACP を行う上での困難と、本人の意思を反映させるための対応・工夫. 日本老年看護学会 第 28 回学術集会 2023.06.16 横浜
1. 高江明日香, 森脇睦子, 鳥羽三佳代, 佐々木美樹, 緒方泰, 尾林聡, 伏見清秀. 発症直前の患者状態に基づく入院中の大腿骨近位部骨折リスクスコアの検討 : DPC データを用いた後方視的コホート研究. 医療の質安全学会 2023.11.25
2. 伊藤 絢乃, 緒方 泰子, 佐々木 美樹, 佐藤 可奈, 藤波 景子, 米倉 佑貴. 看護職が医療を支え続けるために必要な組織・個人特性の解明 (第二報) : COVID-19 患者受け入れ病院の職場環境特性と看護師の心理的安全性との関連. 第 61 回 日本医療病院管理学会学術集会 2023.11.04 東京
3. 緒方 泰子, 山口 さおり, 伊藤 絢乃, 佐々木 美樹, 湯本 淑江, 西岡みどり, 網中 眞由美, 米倉 佑貴, 佐藤 朋子, 浅香 えみ子. 看護職が医療を支え続けるために必要な組織・個人特性の解明 (第一報) : COVID-19 患者を受け入れた 3 病院の看護師及び看護管理者の特性. 第 61 回 日本医療病院管理学会学術集会 2023.11.04 東京
4. 木田亮平, 緒方泰子, 長井聡子. 女性看護職における労働状況の偏在と心理状態 : 二次分析による育児属性ごとの比較. 第 61 回日本医療・病院管理学会学術総会 2023.11.04 東京
5. 長井聡子, 緒方泰子, 山本武志. キャリア初期の看護師のキャリアレディネス尺度の開発と信頼性・妥当性の検証. 第 61 回日本医療・病院管理学会学術総会 2023.11.02 東京
6. 木田 亮平, 緒方 泰子, 長井 聡子. 女性看護職における労働状況の偏在と心理状態 二次分析による育児属性ごとの比較. 日本医療・病院管理学会誌 2023.11.01
7. 高江 明日香, 森脇 睦子, 鳥羽 三佳代, 佐々木 美樹, 緒方 泰子, 尾林 聡, 伏見 清秀. 発症直前の患者状態に基づく入院中の大腿骨近位部骨折リスクスコアの検討 DPC データを用いた後方視的コホート研究. 医療の質・安全学会誌 2023.11.01
8. 緒方 泰子, 山口 さおり, 伊藤 絢乃, 佐々木 美樹, 湯本 淑江, 西岡 みどり, 網中 眞由美, 米倉 佑貴, 佐藤 朋子, 浅香 えみ子. 看護職が医療を支え続けるために必要な組織・個人特性の解明 (第一報) COVID-19 患者を受け入れた 3 病院の看護師及び看護管理者の特性. 日本医療・病院管理学会誌 2023.11.01
9. 伊藤 絢乃, 緒方 泰子, 佐々木 美樹, 佐藤 可奈, 藤波 景子, 米倉 佑貴. 看護職が医療を支え続けるために必要な組織・個人特性の解明 (第二報) COVID-19 患者受け入れ病院の職場環境特性と看護師の心理的安全性との関連. 日本医療・病院管理学会誌 2023.11.01
10. 西川裕理. ケアにつなげる緩和ケアニーズと苦痛のアセスメント. 第 20 回 日本循環器看護学会学術集会 2023.09.16 オンライン
11. 大橋 京子, 廣田 千穂, 陳 冠華, 佐々木 美樹, 緒方 泰子. 病院で働く看護職者における組織的公正と Sense of Coherence の関連-臨床経験年数における比較-. 第 27 回日本看護管理学会学術集会 2023.08.25 東京
12. 久保 杏奈, 長井 聡子, 佐々木 美樹, 緒方 泰子. 病院で働く新人看護師のソーシャルサポートとワーク・エンゲイジメントとの関連. 第 27 回日本看護管理学会学術集会 2023.08.25 東京

13. 勝俣 綾, 陳 冠華, 廣田 千穂, 佐々木 美樹, 緒方 泰子. 病院で働く看護職者の心理的エンパワーメントと離職意図及び離職との関連. 第 27 回日本看護管理学会学術集会 2023.08.25 東京
14. 長井聡子, 緒方泰子, 山本武志. キャリア初期にある看護師がいきいきと働くための個人 資源・仕事資源と人的職場環境との関連. 第 27 回日本看護管理学会学術集会 2023.08.25 東京
15. 湯本淑江, 古澤夏実, 前田優貴乃, 佐々木美樹, 緒方 泰子. 新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病院の看護スタッフが感じた職務上の困難に関する質的研究. 第 27 回日本看護管理学会学術集会 2023.08.25 東京
16. 緒方 泰子, 佐々木 美樹, 湯本 淑江, 佐藤 可奈, 石井 馨子, 長井 聡子, 森脇 睦子, 浅香 えみ子. コロナ禍を超えて我々は成長できるか Post traumatic growth の可能性と混沌からの脱出. 日本看護管理学会学術集会抄録集 2023.07.01
17. 廣山 奈津子, 緒方 泰子, 佐々木 美樹, 大久保 功子, 三隅 順子, 戸田 あゆみ, 松崎 政代.. 性暴力被害者支援における医療連携のしやすさと支援者のバーンアウトとの関連. 第 64 回日本母性衛生学会学術集会 2023.10.13 大阪

#### [受賞]

1. 学会賞 (論文), 日本医療・病院管理学会, 2023 年 11 月

#### [社会貢献活動]

1. 公立大学法人東京都立大学非常勤講師 (緒方), 2007 年 04 月 01 日 - 現在
2. 日本医療・病院管理学会編集委員会委員 (緒方), 2007 年 05 月 29 日 - 現在
3. 日本看護評価学会学術集会 実行委員 (湯本), 2014 年 03 月 - 現在
4. 日本看護評価学会学術集会 実行委員 (佐々木美樹), 日本看護評価学会, 2016 年 03 月 - 現在
5. 日本看護評価学会編集委員会委員 (緒方), 2019 年 04 月 01 日 - 現在
6. 公益社団法人福島県看護協会研修「心理的安全性を高め、組織のパフォーマンスを向上しよう—リーダーシップのあり方—」, 2023 年 08 月 22 日
7. 公益社団法人滋賀県看護協会研修「心理的安全性を高め、組織のパフォーマンスを向上しよう」, 2023 年 09 月 05 日
8. 第 13 回日本看護評価学会学術学会実行委員 (陳), 日本看護評価学会学術学会, 2023 年 09 月 15 日 - 2023 年 09 月 16 日
9. 日本医療・病院管理学会評議員、理事 (緒方)
10. 全国社会福祉協議会全国社会福祉施設経営者協議会初級リスクマネージャー養成講座講師 (緒方)
11. 江東区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進会議副委員長 (緒方)
12. 東京慈恵会医科大学非常勤講師 (緒方)
13. 日本医療・病院管理学会事業委員会委員長 (緒方)

## 災害・クリティカルケア看護学分野

### Department of Disaster and Critical Care Nursing

教授 佐々木 吉子  
准教授 今津 陽子  
助教 野口 綾子 (3月まで)  
講師 野口 綾子 (4月から、集中治療部兼担)  
特任助教 濱舘 陽子 (4月まで)  
プロジェクト助教 濱舘 陽子 (5月から)  
特任研究員 藤村 麻衣子 (4月から8月まで)  
事務補佐員 岡田 久美子

大学院生 (博士5年一貫制)

<共同災害看護学専攻>

小曾根 京子  
鴨田 玲子  
鐘ヶ江 紗里 (3月まで)  
藤村 麻衣子 (3月まで)

<災害・クリティカルケア看護学分野>

佐藤 由紀子  
劉 菲  
富田 (島本) 亜沙子  
家持 縁  
佐藤 央  
佐々木 肇  
堀江 実佐  
櫻井 真秀子 (4月から)  
下村 祐哉 (4月から)

#### (1) 分野概要

当分野は、2014年4月に、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」として、本学および高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学による共同教育課程(5年一貫制博士課程)が開設され、本学の「共同災害看護学専攻」として創設された。構成大学が蓄積してきた災害看護の経験や資源を活かして、災害看護の深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与すること、また、災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決するために、学際的・国際的指導力を発揮できる災害看護のグローバルリーダーを養成することを目標としてきた。2023年12月末までに5大学で52名が入学し、25名が修了して、教育や実践の現場で活躍している。

文科省事業の終了に伴い、2019年度の入学者を最後に同プログラムは学生募集を停止し、2021年度からは、新たに看護先進科学専攻の「災害・クリティカルケア看護学分野」として改組された。5大学災害看護コンソーシアムを組織し、災害看護グローバルリーダーの養成を継承するとともに、クリティカルケア看護の教育・研究にも携わり、日本看護系大学協議会より、クリティカルケア看護の高度実践看護師教育課程としての認定を受け、コースを開講しており、それぞれの領域における高度な実践力、研究力を備えた人材の育成に努めている。

## (2) 研究活動

「共同災害看護学専攻」「災害・クリティカルケア看護学分野」では、以下の研究に取り組んでいる。

### 1. 災害看護：

- ・災害急性期における看護支援に関する研究
- ・災害時要配慮者への災害の備えの支援に関する研究
- ・がん患者と家族の災害への備えに関する研究
- ・大災害を体験した人々の経験の意味の探究
- ・大規模災害時の帰宅困難者対策
- ・企業の災害対策支援
- ・臨床看護師の CBRNE 災害看護対応のための教材開発
- ・被災自治体職員への支援

### 2. クリティカルケア看護：

- ・外傷、重篤疾患の急激な発症や悪化、高侵襲治療により心身の危機的状況にある患者、家族の体験に関する研究
- ・重症で意思疎通が困難な患者の看護ニーズの探究とケアに関する研究
- ・COVID-19 の重症患者ケアに関する研究
- ・一般病棟患者の重症化を予防するための Rapid Response System と Early Warning System に関する研究
- ・PICS、PICS-F に関する研究

## (3) 教育活動

学部教育では、「看護の統合と実践」と「災害看護学」、「卒業論文Ⅱ」を担当する。2023年度は、医学部保健衛生学科看護学専攻1年次後期の「看護の統合と実践」、2年次前期の「看護の統合と実践Ⅱ（新カリ）」、2年次後期の「災害看護学」、4年次前期の「看護の統合と実践Ⅱ（旧カリ）」、「看護の統合と実践実習」を担当した。

「看護の統合と実践」および「看護の統合と実践Ⅱ（新カリ）」では、看護専門職に必要とされる知識・技術・態度について学生自らが考え、看護観を育み、短期的、長期的な自身の学修およびキャリアプランについて検討することを目的として、様々な看護職からの講義やディスカッションを通して学ぶ。「災害看護学」では、災害対応や災害対策に豊富な経験を有する講師による講義とディスカッションにより、学生は災害各期の医療や看護活動について学ぶ。4年次「看護の統合と実践Ⅱ（旧カリ）」では、それまでの学修内容に、新たに看護倫理やマネジメントの視点を含めて熟考・統合し、看護観を醸成させ、短期的、長期的な自身のキャリアプランを検討することを目的とし、看護倫理、看護管理、医療制度・経済の専門家から講義を受けて知識を深めるとともに、組織において多職種と連携しながら看護が果たす役割について考察する。さらに、「看護の統合と実践実習」では、病院機能全体において看護職が果たす役割を総合的な体験・実践を通して理解することを目的とし、既習の知識や技術を基盤として、現場の看護職に求められる知識・技術・態度についてあらためて考察し、学生自らの課題を見出し、総合的な看護実践能力を身に着ける。

大学院では、「共同災害看護学専攻」および「看護先進科学専攻」において、災害看護学、クリティカルケア看護学の高度実践者および研究者を育成する。災害看護学については、5大学で構成する共同教育課程および災害看護コンソーシアムにおいて、グローバルリーダー（DNGL）を志す学生に対して、災害看護に関する多様な課題に対応できる、国際的・学際的指導力を発揮するグローバルリーダーを養成している。心身の危機状態にある、あるいは危機に陥りやすい重症患者やがん患者とその家族に対する高度看護実践者および研究者を育成している。クリティカルケア看護の高度実践者を志向する学生に対しては、日本看護系大学協議会より認定を受けて、「急性・重症患者看護高度実践看護師」の教育コースを開講している。

## (4) 教育方針

学部教育では、看護専門職に求められる知識・技術・態度、看護観について学生自身が4年間の学修を通して育み、既習の知識や技術を基盤とした総合的な臨床実践能力を有する実践者を養成することを目標としている。最終学年である4年次生の2科目では、既習の知識・技術を基に総合的な臨床実践能力を養成するため、シミュレーション教育、実習を配置する。

大学院教育では、修了後は災害看護もしくはクリティカルケア看護の領域で、実践者もしくは教育研究者として自立し、国際社会でも活躍できる高いコミュニケーション力を携え、リーダーシップを発揮することのできる人材を養成することを目標としている。そのため、学生の主体的な学修や研究への取り組みを重視するとともに、多様な学びの機会を支援する。

## (5) 臨床活動および学外活動

### 1. 災害看護

様々な災害へ対応できる能力を養うため、災害看護コンソーシアムを構成する大学間の交流をはかっている。また近隣自治体の防災担当部門との意見交換、東京駅近郊の自主防災組織の活動や災害訓練などに積極的に参加している。当分野が力を入れている帰宅困難者対策については、2021年度大学提案事業に採択され、2022年4月から3年間、東京都総合防災部と連携し、「大規模災害発生時の帰宅困難者民間一時滞在施設の対応力強化支援事業」を行っている。

### 2. クリティカルケア看護

大学病院の集中治療部、ERセンターとの交流や、臨床課題に関する共同研究を行っている。

## (6) 研究業績

### [原著]

1. Noguchi A, Yokota I, Kimura T, Yamasaki M. NURSE-LED proactive rounding and automatic early-warning score systems to prevent resuscitation incidences among Adults in ward-based Hospitalised patients. *Heliyon*. 2023.06; 9(6); e17155

### [書籍等出版物]

1. 菅野久美, 今津陽子, 中山祐紀子, 荒尾晴恵. 第37回日本がん看護学会学術集会災害対策委員会主催研修会報告—コロナ禍において創出された外来がん薬物療法を受ける患者・家族へのケア—. *日本がん看護学会誌* 37巻, 2023.11

### [講演・口頭発表等]

1. Yukari Kamochi, Yoshiko Sasaki, Yoko Imazu. Factors and Effects of Natural Disaster-related Stress on Local Government Employees who Live in Affected Areas: A Scoping Review. 2023.03.10 Tokyo
2. Sari Kanegae, Yoshiko Sasaki, Yoko Imazu.. The Effect of Community Engagement and Community Resilience by Community Health Workers' Practices in Disaster-vulnerable Communities in Sierra Leone. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 2023.03.10 Tokyo, Japan
3. Noguchi Ayako . Association between online visits and post-traumatic stress disorder symptoms in family members of patients with COVID-19 after ICU discharge. 26th East Forum of Nursing Scholars 2023 2023.03.10 Tokyo
1. 下村祐哉, 柴崎有美, 岩間朋子, 林糸り子. 救命ICUにおける新型コロナウイルス感染症に伴う面会制限下に関するオンライン面会時の家族の心情. 第25回日本救急看護学会学術集会 2023.11.25 長崎県長崎市
2. 濱館陽子, 今津陽子, 佐々木吉子, 鴨田玲子. 災害時に帰宅困難者を受け入れる東京都立一時滞在施設の準備性と都立施設マニュアルの活用状況. 日本災害看護学会第25回年次大会 2023.09.03 兵庫県姫路市
3. 増野園恵, 今津陽子, 松尾香織, 森下安子. 日本災害看護学会災害看護倫理検討委員会学会企画4「災害看護研究における倫理について共に考えよう!」. 日本災害看護学会第25回年次大会 2023.09.03
4. 神原咲子, 宮前繁, 花村カテリーナ, 中島麻紀, 今津陽子, 山本あい子. 日本災害看護学会国際交流委員会学会企画6「グローバルなリスク、持続可能な開発と災害看護」. 日本災害看護学会第25回年次大会 2023.09.03
5. 佐々木康介, 藤井愛海, 香川真実, 酒井彰久, 小林賢吾, 岡崎敦子, 小林賢吾, 宮前繁, 濱館陽子, 田中加苗, 神原咲子. 若手アカデミー委員会と考える災害看護の未来に向けた取り組むべき多様な課題. 日本災害看護学会第25回年次大会 2023.09.02 兵庫県姫路市
6. 中島麻紀, 濱館陽子, 村田美穂, 住山結香. 日本における難民・避難民の健康と生活の実態と看護支援に関する文献検討. 日本災害看護学会第25回年次大会 2023.09.02
7. 洪愛子, 奥裕美, 浅香えみ子, 岡林紀江, 國江慶子, 佐々木吉子, 増野園恵, 宮蘭幸江, 山本由美, 吉田るみ, 佐藤美子, 西田知美.. 病院における防災訓練に関する実態調査と危機管理における看護マネジメント能力向上研修の報告. 第27回日本看護管理学会学術集会 指定インフォメーション・エクステンジ 2023.08.25 東京
8. 野口 綾子. 事例に学ぶ: 急変の前の気づき, 急変時対応のノウハウ 患者の急変前に気づき重症化を防ぐ EWSの活用と問題点. *日本臨床救急医学会雑誌* 2023.07.01

9. 佐々木吉子. グローバル時代における持続可能なクリティカルケア看護の探求. 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会会長講演 2023.07.01 東京
10. 藤村 麻衣子, 佐々木 吉子, 今津 陽子. パンデミック禍の集中治療室において看護師が COVID-19 患者の尊厳を守ろうとする看護のプロセス. 日本クリティカルケア看護学会学術集会抄録集 2023.07.01
11. 野坂 宜之, 溝江 亜紀子, 野口 綾子, 竹内 崇, 若林 健二. PICS のエビデンスをもとめて 重症 COVID-19 患者家族の 2 割超に遠隔期 PTSD 関連症状が残存する. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01
12. 野口 綾子, 山田 知明, 内村 祐之, 藍 真澄, 小野 和代, 鳥羽 三佳代, 内御堂 亮, 若林 健二. RRS はじめました!!~そしてどうなった? EWS 自動計算アプリを用いたスコアリングの根源的課題. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01
13. 三島 有華, 野口 綾子, 野坂 宜之, 丸山 史, 岡 晃司, 諏訪辺 久子, 古川 文子, 山内 英雄, 高橋 英夫, 若林 健二. 集中治療医主導型 Risk Assessment System の活動. 日本集中治療医学会雑誌 2023.06.01
14. 濱館陽子, 今津陽子, 鴨田玲子, 佐々木吉子. 東京都内の帰宅困難者一時滞在施設の実態と施設運営や協定締結への障壁に関する文献検討. 第28回日本災害医学会総会・学術集会 2023.03.10 岩手県盛岡市
15. 笠谷美保, 風間郁子, 中信利恵子, 菅野久美, 菅原よしえ, 今津陽子, 岩永和代, 村松真実, 天野薫, 岸田さな江. 日本がん看護学会 SIG 災害がん看護グループ主催交流集会「地域特性を考慮したがん患者と家族に対する災害支援 ~都市、地方ならではのご当地災害対策について話し合おう~」. 第37回日本がん看護学会学術集会 2023.02.26 神奈川県横浜市
16. 中山祐紀子, 浅野耕太, 平松玉江, 今津陽子, 荒尾晴恵. 日本がん看護学会災害対策委員会主催研修会「コロナ禍において創出された外来がん薬物療法を受ける患者・家族へのケア」. 第37回日本がん看護学会学術集会 2023.02.26 神奈川県横浜市
17. 今津陽子, 中山祐紀子, 菅野久美, 渡邊知映, 渡邊眞理, 荒尾晴恵. 新型コロナウイルス感染拡大に伴うがん治療・看護への影響の変化-第1波終了時と第7波開始前時点の Web 調査から-. 第37回日本がん看護学会学術集会 2023.02.25 神奈川県横浜市
18. 駒形朋子, 佐々木吉子. AI/ロボットとのタスクシェアを視野に入れた中規模病院における看護業務の実態調査. 第43回日本看護科学学会学術集会 口演 2023.02.09 下関市
19. 佐藤 央. クリティカルケアの看護師としてオーラルマネジメントについて考えてみよう. 日本クリティカルケア看護学会主催クリティカルケアセミナー 2023.01.28

#### [その他業績]

1. 野口綾子【新人&指導者に役立つ!点滴のしかた&ケアの根拠確認 BOOK 不安やギモンを解消しよう!】確認しておきたい!2 勘違いしてるかも!見直しておきたい日常ケアの根拠 (Part 2) 排痰ケア 排痰しづらい患者さんに、ネブライザー!?, 2023年03月  
Expert Nurse (株) 照林社 39 4 特別付録 52 53 202303 0911-0194
2. 野口綾子【新人&指導者に役立つ!点滴のしかた&ケアの根拠確認 BOOK 不安やギモンを解消しよう!】確認しておきたい!2 勘違いしてるかも!見直しておきたい日常ケアの根拠 (Part 2) 排痰ケア 痰がからむときやむせたときは、背中を叩く!?, 2023年03月  
Expert Nurse (株) 照林社 39 4 特別付録 50 51 202303 0911-0194
3. 日本災害看護学会 災害看護教育セミナー「災害看護を取り巻く研究課題の考究」(濱館陽子), 2023年04月  
日本災害看護学会 災害看護教育セミナーにおいて、今後必要と考える災害看護分野における研究、他分野における知見の活用等について情報提供を行い、今後の災害看護研究や研究結果の社会実装に向けた議論を行った。

#### [社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学病院研究支援 (佐々木吉子), 2005年10月 - 現在
2. 公益社団法人日本看護協会 災害支援ナース (佐々木吉子), 日本看護協会, 2010年 - 現在
3. ラオス国保健医療ボランティア活動団体への支援 (小曾根京子), Plumerian, 東京都, 2020年02月 - 現在

4. 東京医科歯科大学病院研究支援（今津陽子），2020年04月 - 現在
5. 東京慈恵会医科大学医学部看護学科非常勤講師（災害看護学；佐々木吉子），2020年04月01日 - 現在
6. 文京区防災活動（鐘ヶ江紗里），2021年04月01日 - 現在
7. 神奈川県看護協会災害救護対策委員会アドバイザー（佐々木吉子），2022年06月01日 - 2023年05月31日
8. 令和4年度千代田区帰宅困難者対応訓練参加（佐々木吉子、今津陽子、濱舘陽子、家持縁），2023年03月03日
9. NPO ふるさとの会 2023年度第1回防災訓練（小曾根京子），2023年05月19日
10. 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会長（佐々木吉子），第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会, タワーホール船堀（東京都江戸川区），2023年07月01日 - 2023年07月02日
11. 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集會事務局長（今津陽子），第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会, タワーホール船堀（東京都江戸川区），2023年07月01日 - 2023年07月02日
12. NPO ふるさとの会 2023年7月災害対策委員会（小曾根京子），2023年07月06日
13. NPO ふるさとの会 2023年8月災害対策委員会（小曾根京子），2023年08月10日
14. 令和5年度東京駅周辺防災隣組 負傷者搬送訓練への参加（佐々木吉子、今津陽子、濱舘陽子、劉菲），東京駅周辺, 2023年09月01日
15. 日本災害看護学会 第25回年次大会 実行委員（鴨田玲子），2023年09月02日
16. 日本災害看護学会第25回年次大会シンポジウム2での座長「災害時医療を支えるBCP策定のあり方」（今津陽子），日本災害看護学会第25回年次大会, 2023年09月02日
17. 日本災害看護学会第25回年次大会企画委員（今津陽子），日本災害看護学会第25回年次大会, アクリエひめじ, 2023年09月02日 - 2023年09月03日
18. 日本災害看護学会 第25回年次大会 実行委員（家持縁），一般社団法人 日本災害看護学会, 一般社団法人 日本災害看護学会 第25回大会, アクリエひめじ, 2023年09月03日
19. NPO ふるさとの会 2023年9月災害対策委員会（小曾根京子），2023年09月21日
20. 東京都事業素防災リーダー必携編集委員会委員（佐々木吉子），東京都総務局総合防災部, 2023年09月27日 - 現在
21. NPO ふるさとの会 2023年第2回防災訓練（小曾根京子），2023年10月14日
22. NPO ふるさとの会 2023年11月災害対策委員会（小曾根京子），2023年11月16日
23. 第25回日本救急看護学会学術集会シンポジウム座長（佐々木吉子），第25回日本救急看護学会学術集会, 出島メッセ, 2023年11月25日
24. 東京都企業防災リーダーアドバイザー（佐々木吉子），東京都, 2023年12月08日 - 現在
25. NPO ふるさとの会 2023年12月災害対策委員会（小曾根京子），2023年12月21日

### Ⅲ.2023 年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

## 2023年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士(看護学)58名

	学 生 氏 名	論 文 題 目
1	田 村 陽 佳	訪問看護事業所の損益に関連する要因:全国調査の二次分析
2	菊 地 原 さくら	訪問看護ステーションのアウトカムと関連要因:全国調査の二次分析
3	朝 倉 麻 友	在宅医療における有害事象の発生と関連要因:スコーピングレビュー
4	宇 田 川 さくら	入院期間中の実質看護配置と患者アウトカムの関連 DPC 及び様式9 のリンケージデータを用いた後ろ向き観察研究
5	玉 置 知 子	Trends in the Geographic Inequality of Oncology Certified nurse specialists and Certified nurses in Japan from 1996 to 2022: A Panel Data Analysis 日本における1996年から2022年までのがんの専門・認定看護師の地理的分布の推移:パネルデータ分析
6	市 川 さくら	健診習慣のない子育て世代の被扶養者女性が捉えた「20歳からの健康診査」の受診促進方法
7	植 村 天 音	月経随伴症状が看護業務にもたらす影響
8	遠 藤 菜 々	子宮頸がんワクチンの接種に対する母親への教育的介入の効果と教育方法の検討
9	門 珠 衣	新型コロナウイルス感染症の5類移行後の大学生における気晴らしの実態
10	北 原 多 映 子	乳幼児親子による地域の居場所の継続的利用に向けた子育て支援拠点のスタッフによる工夫
11	高 野 愛 紗	テレワーク労働者の身体活動における促進要因の解明:フォーカスグループインタビュー
12	常 川 美 羽	発達障害の特性をもつ母親への児の発達段階に応じた支援
13	原 田 伊 織	東京都における子宮頸がん検診受診率の地域格差と要因分析
14	堀 純 華	大学生の一人暮らしがもたらす生活習慣の変化とストレス面への影響
15	森 部 由 楽	炎症性腸疾患患者へ遠隔看護をしている看護師の実践に関するインタビュー調査～体調悪化時に焦点化して～
16	高 井 桃 子	日本の炎症性腸疾患患者の疲労の実態と関連要因および既存文献を用いた国際比較
17	若 井 さ や か	日本の炎症性腸疾患患者の性的満足度に関連する要因の検討
18	今 橋 果 音	手術室看護師による術前外来での取組とその効果についての文献検討
19	菱 木 咲 希	就労のある2型糖尿病患者の良好な疾患管理への支援に関する文献検討
20	小 島 百 華	急性期病院に勤務する臨床経験1～3年目の看護師におけるせん妄患者をケアする困難に関する研究
21	中 村 佳 乃	がん患者の外見変化に対する看護支援についての文献検討
22	赤 坂 諒 子	震災を経験した学童期、思春期の小児に対する心理支援:文献レビュー
23	太 田 涼 水	日本の大学生・短期大学生のメンタルヘルスリテラシーの実態に関する文献レビュー
24	南 須 原 紫 乃	自傷行為、希死念慮のある患者に関わる精神科看護師の陰性感情:文献レビュー
25	林 七 穂	統合失調症患者の早期再入院に関連する要因:文献レビュー
26	大 和 英 恵	精神科における看護師の共感疲労とその関連要因に関する文献レビュー
27	吉 田 美 央	統合失調症を有する超長期入院患者への退院支援:文献レビュー

	氏名	論文題目
28	内藤 ゆみ	アトピー性皮膚炎をもつ子どもとその家族に対する看護介入がQOLと自己効力感に及ぼす効果：文献検討
29	阿部 由芽	小児患者の成人移行期支援における看護師の困難感に関する文献検討
30	田中 優	小児がんを持つ患児への看護師による学習支援の実際と課題
31	秋山 凜奈	NICUに入院した児の父親に対する看護実践
32	吉田 乃の葉	性暴力被害者支援における二次受傷を評価する尺度のスコopingレビュー
33	石橋 千秋	性暴力被害における支援者の二次受傷とその関連要因：文献検討
34	海老澤 優実	性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの支援員が抱える困難と求めるもの
35	清水 風花	ワンストップ支援センターの支援員が困難を感じる性暴力被害の特徴：質的研究
36	青木 美優	保育園における授乳方法に関する質的研究
37	大西 玲葉	働く母親の保育園での授乳に関する経験
38	吉野 凜菜	自宅療養をした終末期がん患者の自宅看取りに関する要因の探索
39	竹内 夢	救急出動件数と地域医療資源の関連－NDB オープンデータを用いて－
40	畑崎 華織	入退院支援に関連する要因の探索－オープンデータを用いた地域比較－
41	山田 滉太	高齢者施設における介護ロボットの導入に関する文献検討
42	松平 妃代	訪問看護利用者における救急受診の関連要因の検討～居住地域に着目して～
43	風間 吏沙子	利用者の満足度に関連する訪問看護師のケア・アセスメントの探索
44	長谷川 優衣	訪問看護利用者に対する夜間休日の緊急対応回数の関連要因
45	大谷 香緒	看護師とチャイルド・ライフ・スペシャリストのMRI 検査実施に伴うプレパレーションの介入の違いに関する文献検討
46	蔭西 希美	Factors related to interest in foreign perinatal culture and confidence in the care for foreign people of nurses and midwives working in Obstetrics unit: A pilot study
47	坂本 理恵	精神科看護師の離職要因に関する文献検討
48	尾木 美智	DPCデータを用いた周術期口腔ケア実施状況の多施設比較
49	保坂 祐衣	ストーマ造設患者に対するe-health 介入の種類とアウトカム：スコopingレビュー
50	田中 陽菜	造血幹細胞移植患者に対する歯科と連携した周術期口腔ケア介入の実施状況
51	中澤 花梨	看護師長のエンパワリングリーダーシップ、メンバーのレジリエンスとインシデントから学ぶ組織学習との関連
52	鈴木 友里亜	認知症者がケアを拒否した際の工夫：訪問看護事業所のスタッフを対象とした質的研究
53	村島 梨月	避難所における食物アレルギー患者に対する対応の現状と課題
54	古川 真帆	首都圏で大規模自然災害が発生した際に病院が隣接する都内の大学の看護学生に期待されること
55	志田 美華	ICUでの人工呼吸器ウィーニングに向けた多職種連携において看護師が行う調整と患者への看護ケア
56	米山 真優	被災地内の病院で勤務する看護師が感じるストレス要因とその影響
57	岡本 涼音	ドクターカー看護師の現場における活動の実際と役割
58	山田 圭純	日本における自然災害被災者への精神的ケアの現状と課題

#### IV. 2023 年度大学院保健衛生学研究科博士課程

##### 課題研究題目一覧表

## 2023年度大学院保健衛生学研究科博士課程学位論文一覧表

○修士（看護学）8名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	GANCHULUUN SAMBUU	看護先進科学専攻	近藤 暁子	Comparison of the nurses' professional autonomy between when caring for patients with COVID-19 and when caring for other patients in a University Hospital: a cross-sectional study	緒方 泰子	森田久美子	森岡 典子
2	大平 綾美	看護先進科学専攻	森田 久美子	地域在住高齢者の心理社会的健康の促進におけるICTを活用した介入：スコーピングレビュー	緒方 泰子	川上 明希	矢郷 哲志
3	佐藤 央	看護先進科学専攻	佐々木 吉子	家族と同居する看護師が重症COVID-19病棟での勤務を決定するプロセス	月野木 ルミ	川本 祐子	矢郷 哲志
4	清水 理恵	看護先進科学専攻	田中 真琴	がん遺伝子パネル検査に従事する医療者を対象にした患者及び家族に行っている支援についてのインタビュー調査	松崎 政代	森田 久美子	菅野 雄介
5	平谷 七美	看護先進科学専攻	谷口 麻希	The moderating effects of family functioning on the association between adolescent Internet Gaming Disorder and parental mental health: A cross-sectional study	松崎 政代	岡光 基子	佐々木 美樹
6	廣田 千穂	看護先進科学専攻	緒方 泰子	心血管疾患患者の服薬行動における意図的・非意図的のノンアドヒアランス：スコーピングレビュー	田中 真琴	佐々木 吉子	川上 明希
7	堀江 実佐	看護先進科学専攻	佐々木 吉子	補助人工心臓 (Ventricular Assist Devices; VAD) 装着患者の家族を支援するクリティカルケア看護師の経験	柏木 聖代	岡光 基子	佐々木 美樹
8	松崎 愛	看護先進科学専攻	岡光 基子	妊娠中、または乳幼児をもつ女性受刑者に対する親子の関係性支援に関する文献レビュー	緒方 泰子	松長 麻美	森岡 典子
9	応 哲希	看護先進科学専攻	近藤 暁子	Mental health impacts and associated factors of COVID-19 pandemic on Chinese international students: A systematic review and meta-analysis	谷口 麻希	松長 麻美	今津 陽子
10	陳 冠華	看護先進科学専攻	緒方 泰子	Factors associated with burnout among foreign-educated nurses: A scoping review	谷口 麻希	森岡 典子	小笹 由香

課程博士

○博士（看護学）6名

	氏名	専攻	指導教員	論文名	主査	副査	副査
1	平岩 千明	看護先進科学（精神保健看護学分野）	谷口 麻希	精神状態の急性増悪により入院を要した人の家族の体験－自分の‘家族’の具合が急に悪くなった時－	佐々木 吉子	柏木 聖代	野口 麻衣子
2	森 陽子	看護先進科学（高齢社会看護システム管理学分野）	緒方 泰子	Development and Psychometric Validation of an Educational Support Assessment Scale for Novice Home Healthcare Nurses	柏木 聖代	月野木 ルミ	野口 麻衣子
3	樺島 稔	看護先進科学（看護ケア技術開発学分野）	柏木 聖代	Biomechanical Analysis of Nurses' Touching Techniques According to Clinical Symptoms	緒方 泰子	佐々木 吉子	川上 明希
4	相島 美彌	看護先進科学（在宅・緩和ケア看護学分野）	福井 小紀子	Unplanned hospital visits and poor oral health with undernutrition in nursing home residents	谷口 麻希	月野木 ルミ	川上 明希
5	坂野 朋未	看護先進科学（在宅・緩和ケア看護学分野）	福井 小紀子	Impact of home-visit nursing service use on costs in the last 3 months of life among older adults: A retrospective cohort study	田中 真琴	月野木 ルミ	森岡 典子
6	華 婧	看護先進科学（国際看護開発学分野）	近藤 暁子	Job Satisfaction, Intention to Leave, and Related Factors among Foreign-educated Nurses in Japan: A Cross-sectional Study	松崎 政代	佐々木 吉子	森田 久美子

## V. 委員会委員名簿

2023 年度 各種委員会等メンバー

2023 年 10 月 1 日

〔大学院〕  
 保健衛生学研究科長:福井  
 大学院教育委員会委員長(看護):柏木  
 大学院教育委員会委員長(検査):伊藤  
 看護先進科学専攻長:佐々木(吉)  
 共同災害看護学専攻長:佐々木(吉)  
 生体検査科学系教授会議長:

〔学部〕  
 保健衛生学科長:角  
 学部教育委員会委員長:緒方  
 看護専攻主任:田中  
 検査技術学専攻:伊藤

☆責任者 ○副責任者 ( )オブザーバー

〔大学院教育委員会〕	【看】	☆柏木、佐々木(吉)、月野木、松崎、(廣岡・谷口)	
〔大学院教育委員会〕	【検】	☆伊藤、角、柿沼、鈴木、西尾、副島、太田	
〔学部教育委員会〕	【看】	☆緒方、田中、月野木、野口麻、(松崎、森岡)	
	【検】	星、伊藤、齋藤、柿沼、(角)(陪席:大川、西尾)	
〔国際教育・研究センター〕 (検査のみ兼任)〔海外学生交流受入・遠隔交流 WG〕	【看】	☆近藤、谷口、津田、廣岡、川上、矢郷、湯本、大河原、小笹	
	【検】	○大川、齋藤、鈴木、西尾、副島	
〔統計・データサイエンス WG〕		【検】角	【看】森田
〔教学 IR〕		【検】大川	【看】月野木
〔統合教育多職種連携教育 WG〕	【看】	☆田中、佐々木美、当日)今津、矢郷、大河原、湯本、川本、廣山、菅野	
〔スキルス・ラボ検討委員会/教育開発チーム DX〕	【看】	☆田中、○森岡、(学内)津田、矢郷、川本	
〔検査 CBT/OSCE 担当委員会・スキルボ 検討委員会〕	【検】	☆柿沼、大川、田中、赤座、副島、藤代	
〔学部カリキュラム委員会〕	【看】*	☆月野木、○柏木、田中、緒方、近藤、松崎、野口(麻)、今津、岡光、松長	
	【検】	☆星、角、齋藤、太田	
〔実習・臨地実習担当委員会〕	【看】	☆今津、佐々木(美)、○森岡、矢郷、廣岡、大河原、○川本、津田、廣山、湯本、松長、菅野、小笹(委員長、副委員長は委員会で決定)	
〔実習・臨地実習・タスクシフト担当委員会〕	【検】	☆齋藤、西尾、副島、赤座、太田	
〔卒業論文委員会〕	【看】	☆佐々木(美)、森田、廣山、川本、大河原、小笹	
〔卒業研究委員会〕	【検】	☆鈴木、星、本間、山口	
〔進級判定〕	【検】	☆伊藤	
〔卒業試験委員会〕	【検】	☆田中、藤代、本間	
〔進路指導委員会〕	【看】	3・4 年生学年担任	
	【検】	☆大川、鈴木、柿沼、田中、本間、吉本	
〔国試対策委員会〕	【看】	☆松長、廣山	
	【検】	☆齋藤、大川、田中、赤座、副島、本間、藤代、太田、山口	
〔学年担任〕		【看】	【検】
・1年生(35回生)		今津、大河原	大川
・2年生(34回生)		川上、湯本	星
・3年生(33回生)		岡光、森岡(進路指導担当)	柿沼
・4年生(32回生)		佐々木美、津田(進路指導担当)	西尾
〔試験監督調整委員〕		川上	田中(期末試験・卒業試験)
〔保健衛生学科 FD 委員会〕		【看】☆岡光、廣岡、廣山	【検】☆大川、田中
〔親睦会・会計〕	【検】	☆柿沼、伊藤、赤座、山口	
〔LAN・ホームページ・広報担当委員会〕	【検】	☆西尾、本間、藤代、山口	
〔総務〕(旧親睦会・会計、LAN・HP、図書・広報を吸収)	【看】	☆森田、川本、○菅野、大河原	
〔自己点検・評価委員会〕	【看】	☆緒方、廣岡、大河原、矢郷	
	【検】	☆伊藤	
〔生体検査科学セミナー・リサーチカンファ委員会〕	【検】	☆鈴木、伊藤、赤座、太田、山口	
〔オープンキャンパス等・受験生対策 WG〕 (出前授業・サマー ロラム吸収)	【看】	☆野口麻、○廣岡、松長、菅野、川本、大河原、湯本(オープンキャンパス当日は全分野の助教)	
	【検】	☆西尾、赤座、副島、本間、藤代、太田、山口	
〔医歯学融合教育委員会〕(シナリオ作成)	【検】	☆柿沼、田中、赤座、副島、藤代、太田、松沢、河原	
〔実習室等の管理〕	【検】	研修室:伊藤、7 階:星、8F実1:大川、8階実2:齋藤、8F実3:柿沼	
〔看護人材育成ワーキング(看護部との教育連携)〕	【看】	コアメンバー:☆田中、柏木、佐々木吉 メンバー:今津、川上、森岡	
〔未来創成ナースングリサーチセンターNIReC〕	【看】	センター長:☆福井 専任:塩澤 病院:○緒方、○田中、松崎、岡光、谷口、廣岡、今津、川上、佐々木美、小笹 東工大:○柏木、○月野木、佐々木吉、近藤、森田、野口麻、松長、森岡、菅野	

\*定期的に情報共有。例:①各委員長・大学院教育委員長・学部教育委員長・研究科長 →②全教授 (→③全教員)【その他全学/学外】

## VI. 就職状況一覧表（2023年3月卒業・修了者）

就職状況一覧表

2024.5.1現在

(看護先進科学)

区分		学部 (看護学)		大学院	
				博士課程	
		小計	合計	小計	合計
進学	本学	3	8	0	0
	本学以外	5		0	
就職	看護師	本学	35	0	5
		本学以外	7	1	
	保健師		5	0	
	助産師		0	0	
	助教 (大学機関)		0	4	
	助手 (大学機関)		0	0	
	講師 (大学機関)		0	0	
	その他		2	0	
	その他 (不明)		1		
合計		58		6	

東京医科歯科大学大学院  
保健衛生学研究科年報

2023年度

保健衛生学研究科教育委員

柏木 聖代 委員長

佐々木 吉子

月野木 ルミ

松崎 政代

発行  
編集・発行

2025年3月

東京医科歯科大学大学院

保健衛生学研究科教育委員会

<http://www.tmd.ac.jp/faculties/health-care/index.html>